KYOKUTO

2024年3月期
通期決算

極東開発工業株式会社
東証プライム:7226

目 次

1. 極東開発工業について	P2 ～ 5
2. 2024年3月期通期 実績	P6 ～ 8
3. セグメント別実績	P9 ～20
4. 2025年3月期通期 業績予想	P21～28
5. 企業価値向上へ向けた取り組み	P29～40
6. TOPICS	P41～46

1. 極東開発工業について

事業内容

特装車事業

特殊自動車その他の輸送運搬機械の製造、架装及び販売、修理ならびに同部品の製造、販売。
トレーラ・トラックボデー等の製造及び販売。

環境事業

環境整備機器及び施設の製造、販売、修理ならびに同部品の製造、販売。
環境整備機器及び施設の運転、管理。

パーキング等事業

立体駐車装置及び設備の製造、据付、販売及び修理。
駐車場の経営（コインパーキング）。

極東開発工業のグループ構成

極東開発工業株式会社

特装車事業

- 日本トレクス
- エフ・イ・オート
- 振興自動車
- 北陸重機工業
- 井上自動車 ◎
- 九州特殊モータース※1 ○

海外拠点

- 極東開発（昆山）機械
- 極東特装車貿易（上海） ◎
- SATRAC
- PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA
- PT KYOKUTO INDOMOBIL DISTRIBUTOR INDONESIA ◎
- Kyokuto Australia Pty Ltd※2 ○

環境事業

- 極東サービスエンジニアリング
- 極東サービスエンジニアリング北海道
- モリプラント ◎
- エコファシリティ船橋 ◎
- エコファシリティ西宮 ○

パーキング等事業

- 極東開発パーキング
- ささしまライブパーキング ◎
- エフ・イ・イ

2024年3月末時点

連結子会社	11社
◎ 持分法適用会社	6社
○ 持分法非適用会社	3社

※1 2023年5月取得
※2 2023年7月取得

当社の強み

◆特装車売上首位の総合メーカーとして**豊富な車種とラインナップ**

◆多数有する**高シェア製品**

◆顧客の多様なニーズに応える**技術力**

◆電動化技術をはじめ、AI・IoTなどの
新技術の開発への積極的な取り組み

◆積極的な**海外展開**

◆リサイクルプラントは国内200か所以上の**豊富な納入実績**
かつ**ストックビジネスで強み**

◆バイオマスプラントなどの**新分野への取り組み**

⇒ **ニッチ市場であるが「社会インフラを支える製品」分野の安定的なプレイヤー**

2. 2024年3月期通期 実績

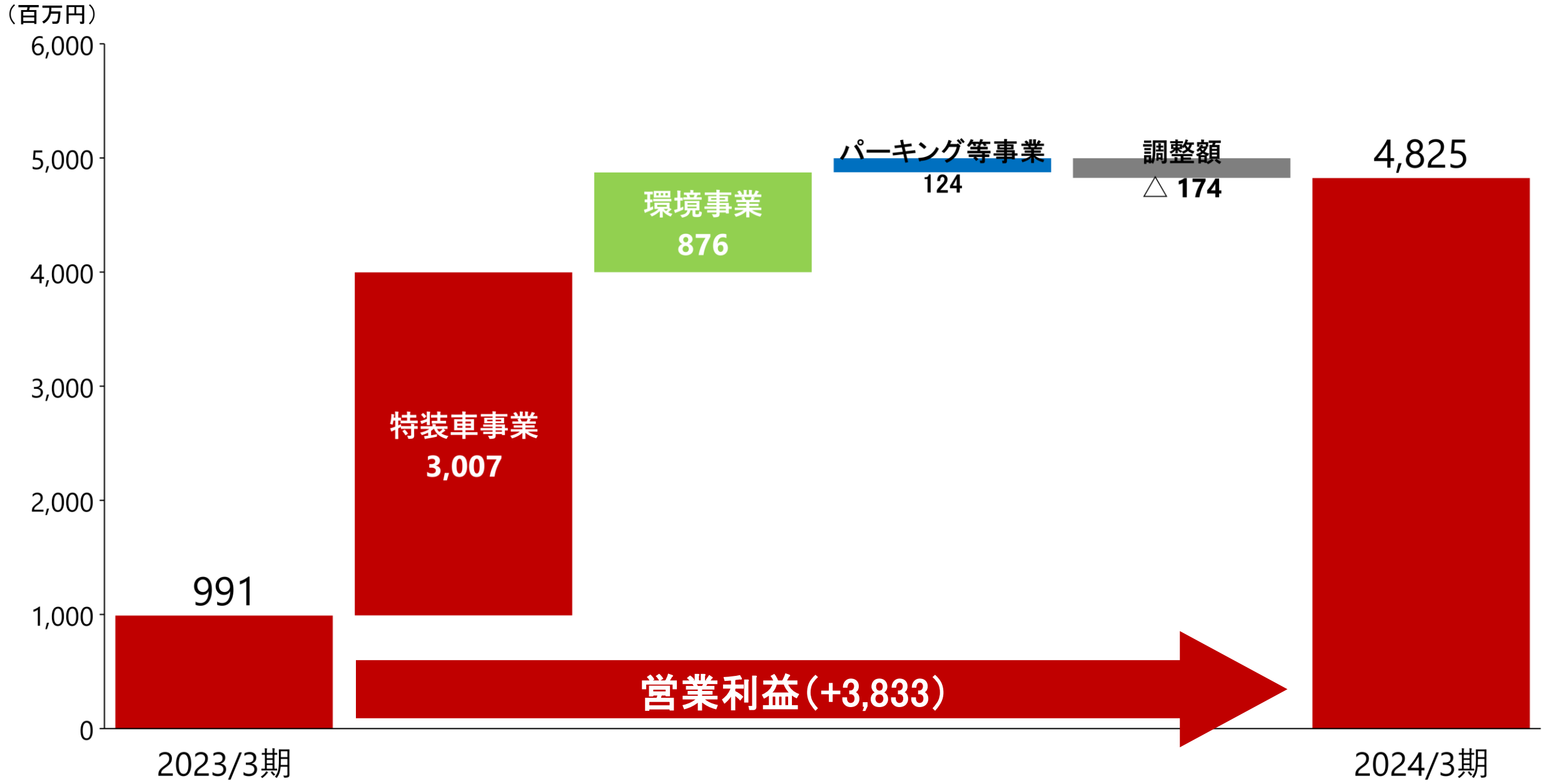
2024年3月期通期 連結決算実績サマリー

百万円 ＼ 決算期	2023/3期	2024/3期	増減	増減率
売上高	113,089	128,026	+ 14,937	+13.2%
営業利益	991	4,825	+ 3,833	+386.7%
経常利益	1,187	5,617	+ 4,430	+373.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,580	3,501	△ 79	△2.2%
特装車事業 受注高	99,336	88,650	△ 10,686	△10.8%
特装車事業 受注残高	80,219	77,553	△ 2,666	△3.3%

2024年3月期 通期 連結決算のポイント

- ✓ 特装車事業は、半導体不足によるシャシ遅延が徐々に改善、製品価格改定の効果もあり、売上高・利益共に大きく増加
- ✓ 環境事業が大幅に増収増益
- ✓ パーキング等事業も増収増益

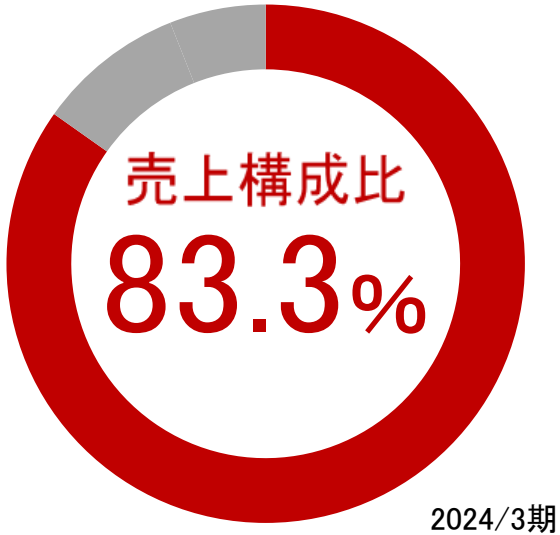
連結営業利益増減要因（セグメント別）



3. セグメント別実績

特装車事業

特装車事業



2024/3期 通期

売上高 （+11.1%）

- 半導体不足等に伴う国内トラックシャシの供給遅延が改善
- 国内・海外（インド、インドネシア）が引き続き好調
- 一部、トラック部品の調達遅延等による影響を受ける

営業利益 （ 黒字化 ）

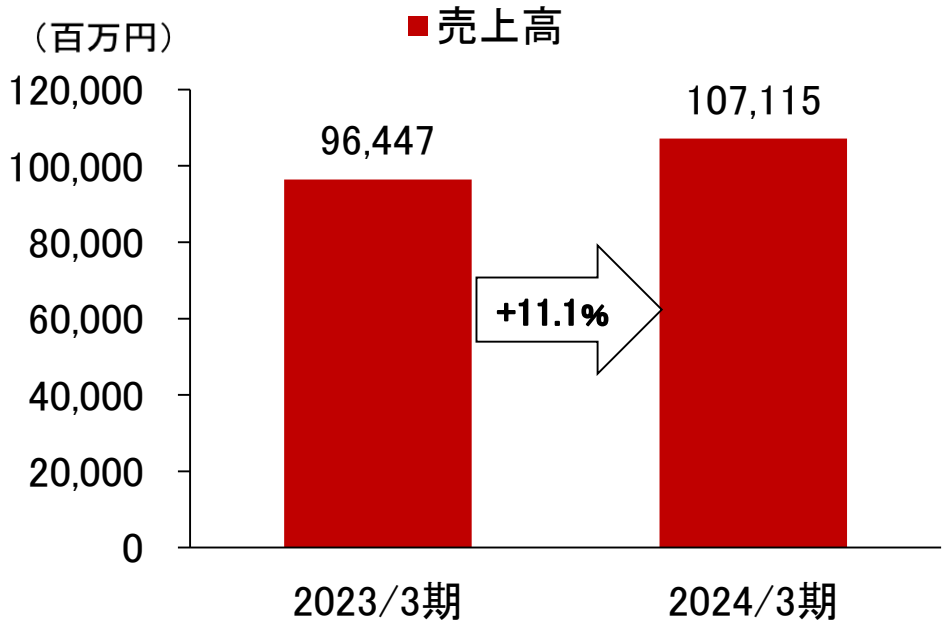
- 製品価格改定の効果

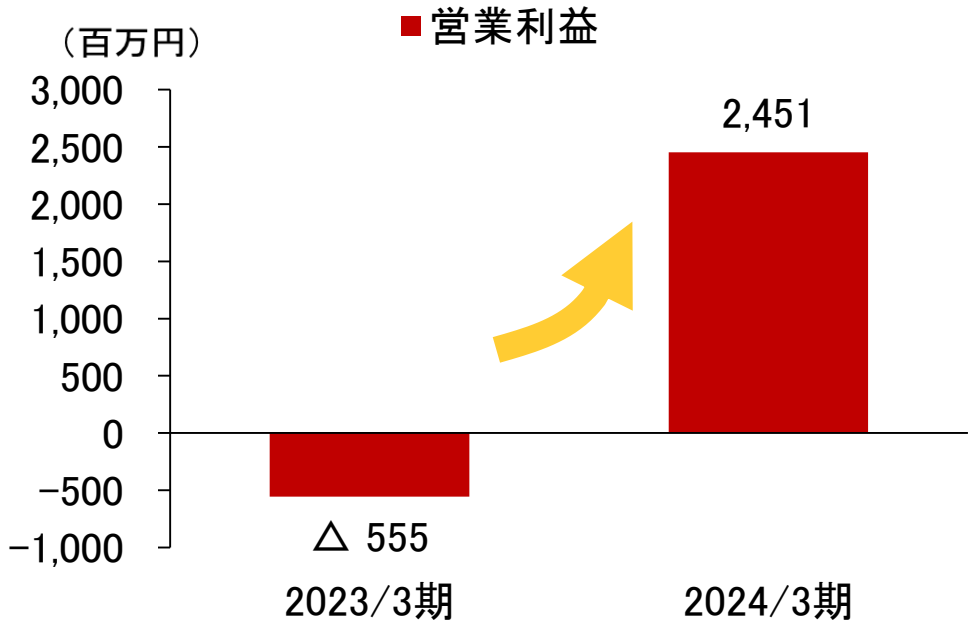
海外売上内訳

（百万円）

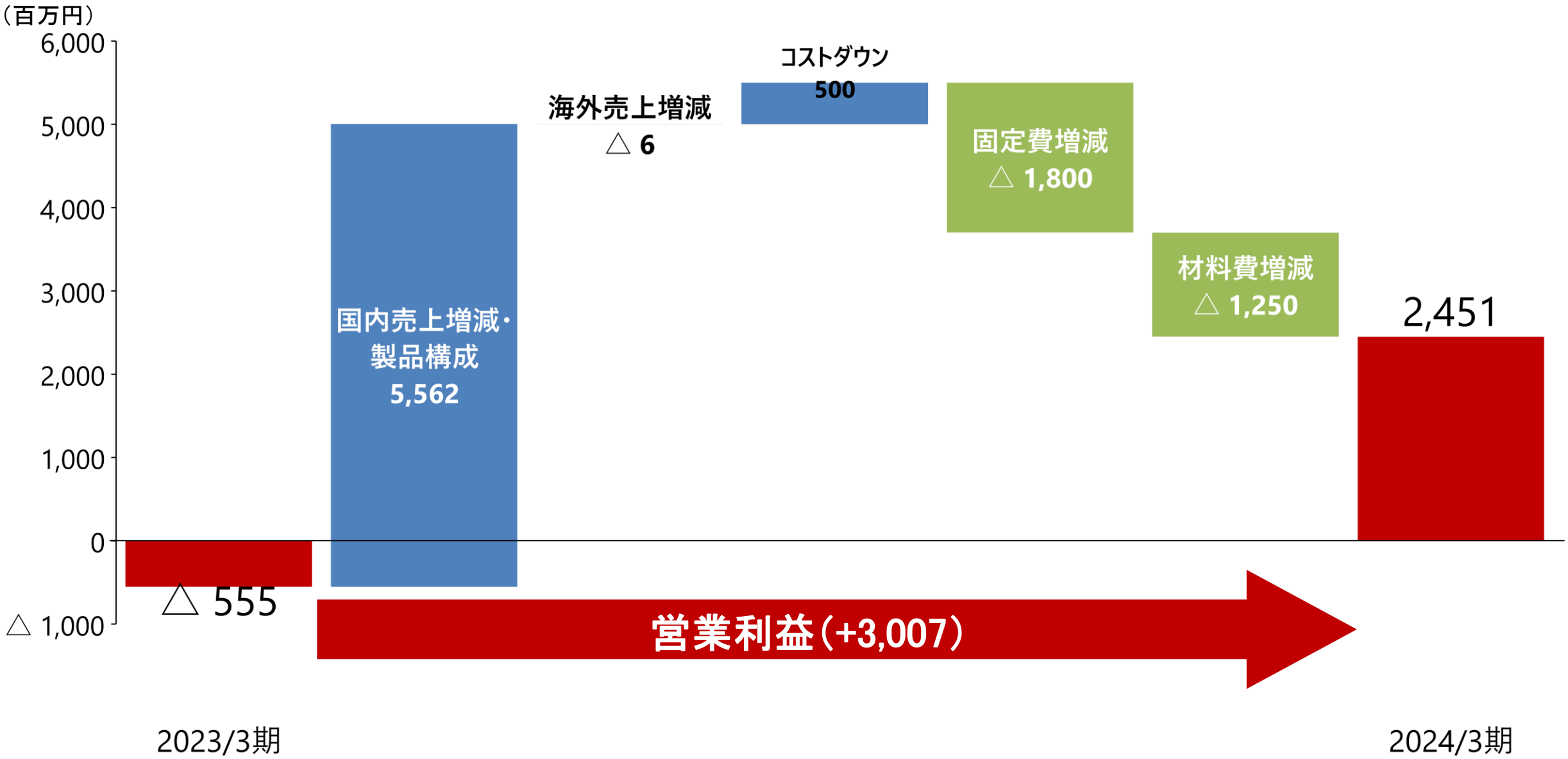
売上	2023/3期	2024/3期
ｲﾝﾄﾞ	6,724	7,664
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	1,417	1,780

営業利益	2023/3期	2024/3期
ｲﾝﾄﾞ	705	513
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	168	324

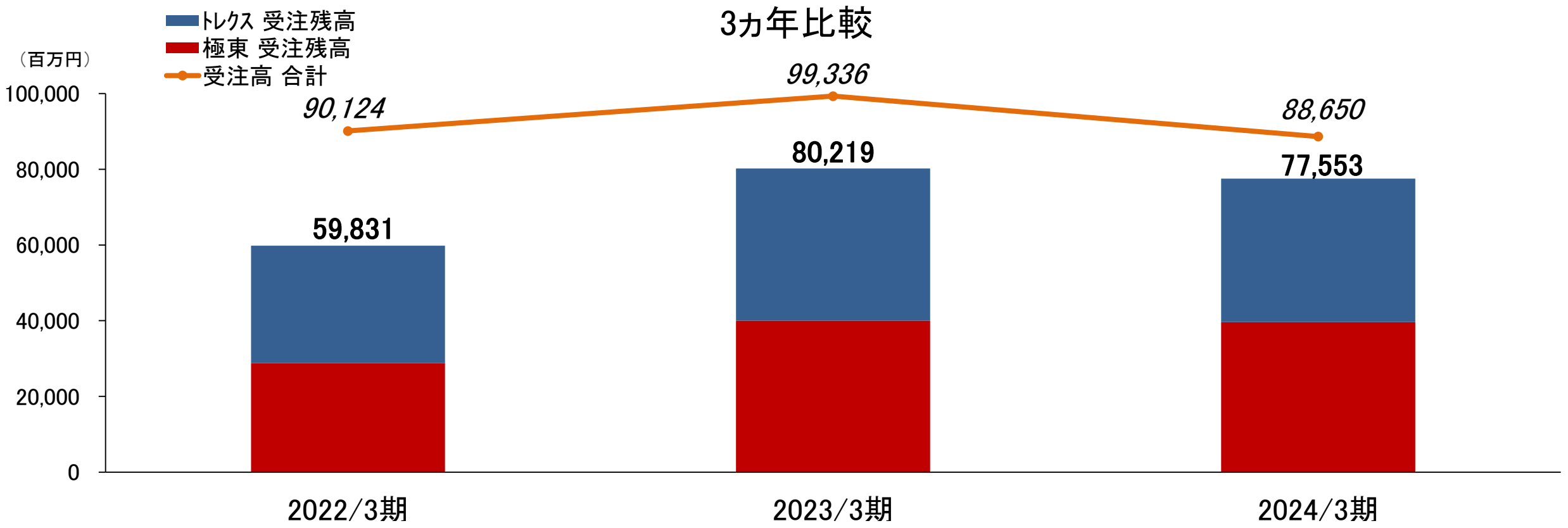




連結営業利益増減要因（特装車事業）



特装車事業 受注高と受注残高

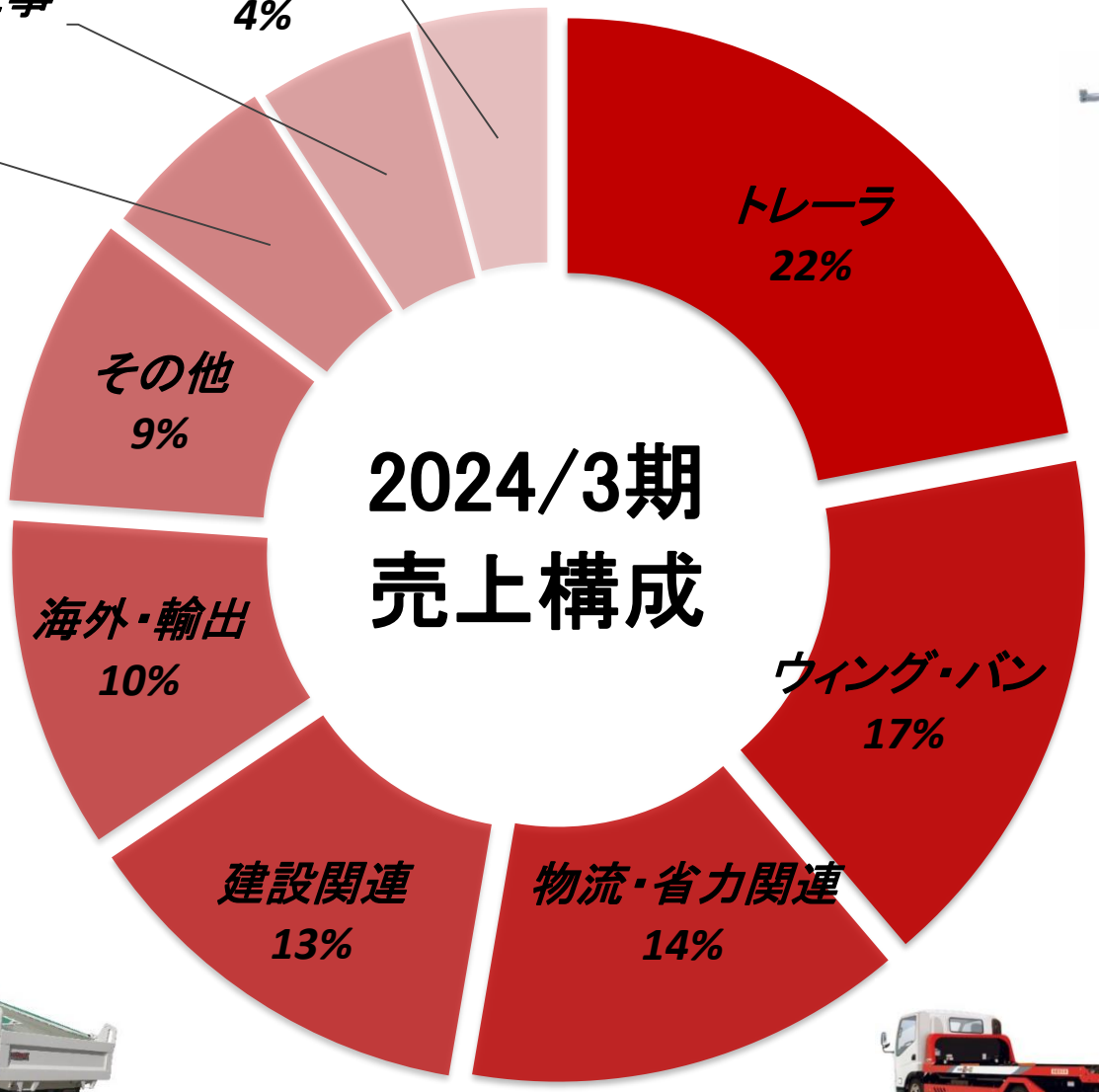


	2022/3期	2023/3期	2024/3期
極東 受注高	49,761	47,056	43,981
トレクス 受注高	40,363	52,280	44,669
受注高 合計	90,124	99,336	88,650
極東 受注残高	28,779	39,993	39,627
トレクス 受注残高	31,052	40,226	37,926
受注残高 合計	59,831	80,219	77,553

特装車事業 売上構成

SATRAC Trailers & Truck Builtups

PT KYOKUTO INDOMOBIL



※連結消去前

特装車事業 製品別売上高

KYOKUTO

売上高(百万円)

	2024/3期	2023/3期
トレーラ	24,616	26,122
ウィング・バン	18,754	13,888
物流・省力関連	15,568	13,515
建設関連	14,414	13,177
海外・輸出	11,753	10,347
その他	10,269	9,175
環境・福祉・作業関連他	6,291	4,915
シャシ・雑工事	5,550	4,995
部品・修理	4,628	4,882

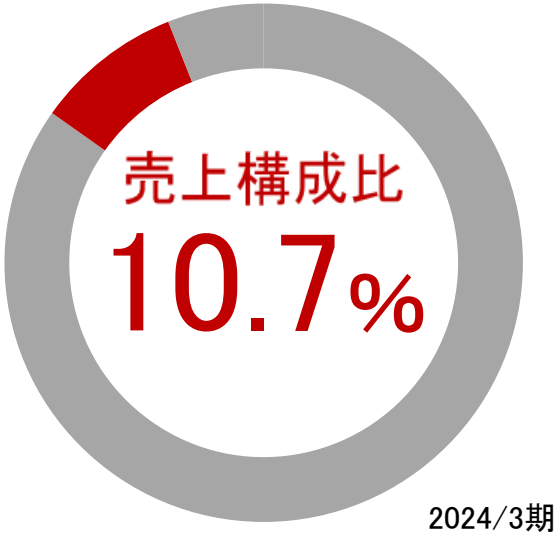
SATRAC Trailers & Truck Builtups

PT KYOKUTO INDOMOBIL

※連結消去前

環境事業

環境事業



売上高 （+33.8%）

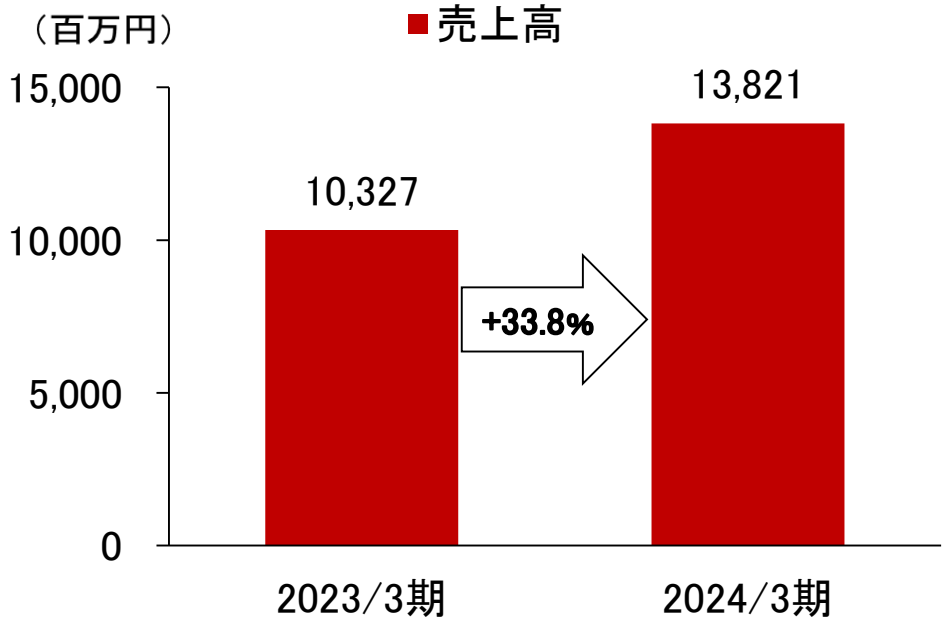
↑ プラント建設の増加（建設工事が順調）

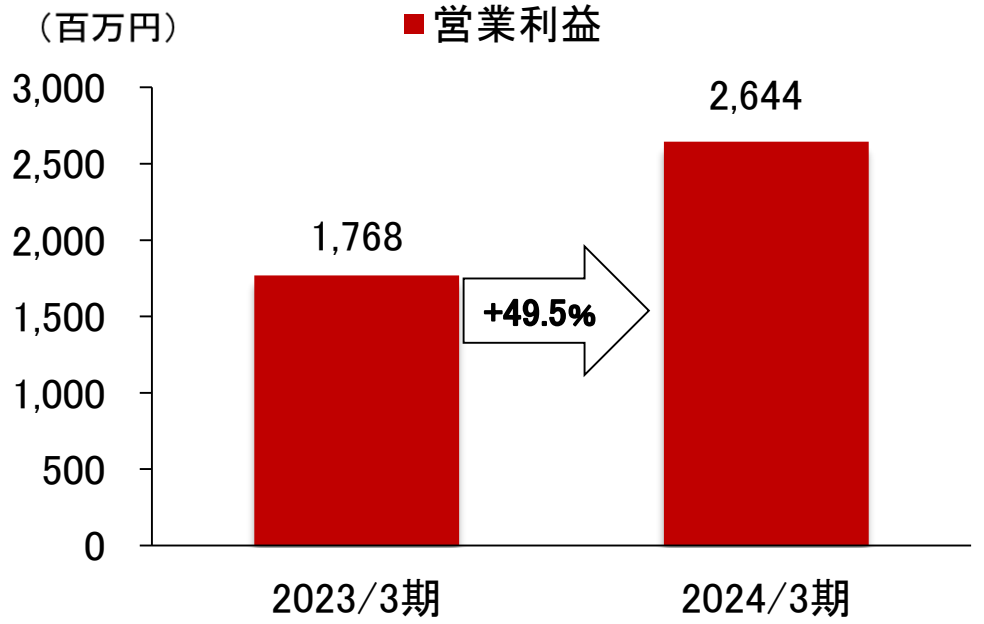
↑ メンテナンス・運転受託も増加

営業利益 （+49.5%）

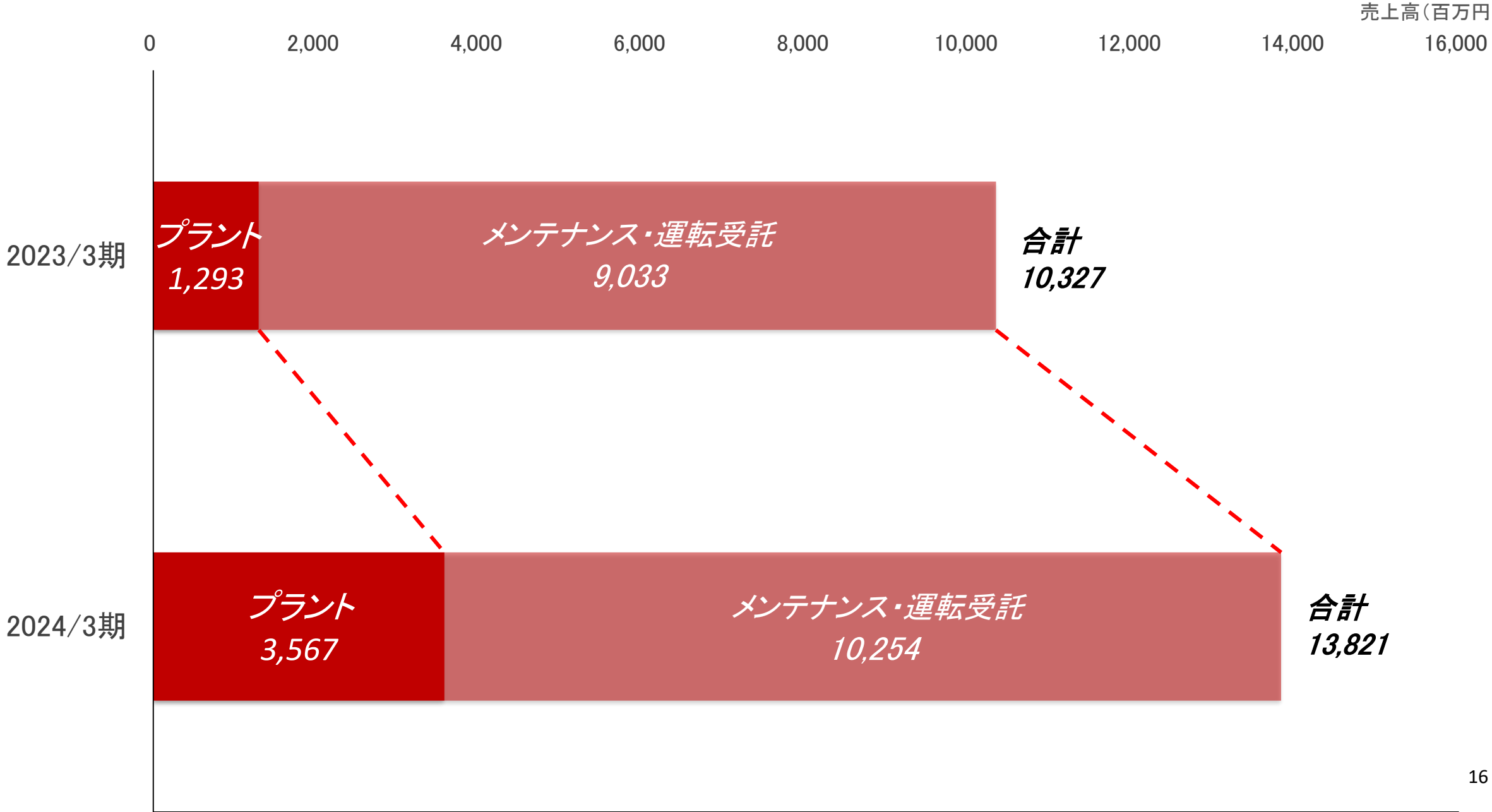
↑ 上記の売上増により大幅増益

2024/3期 通期

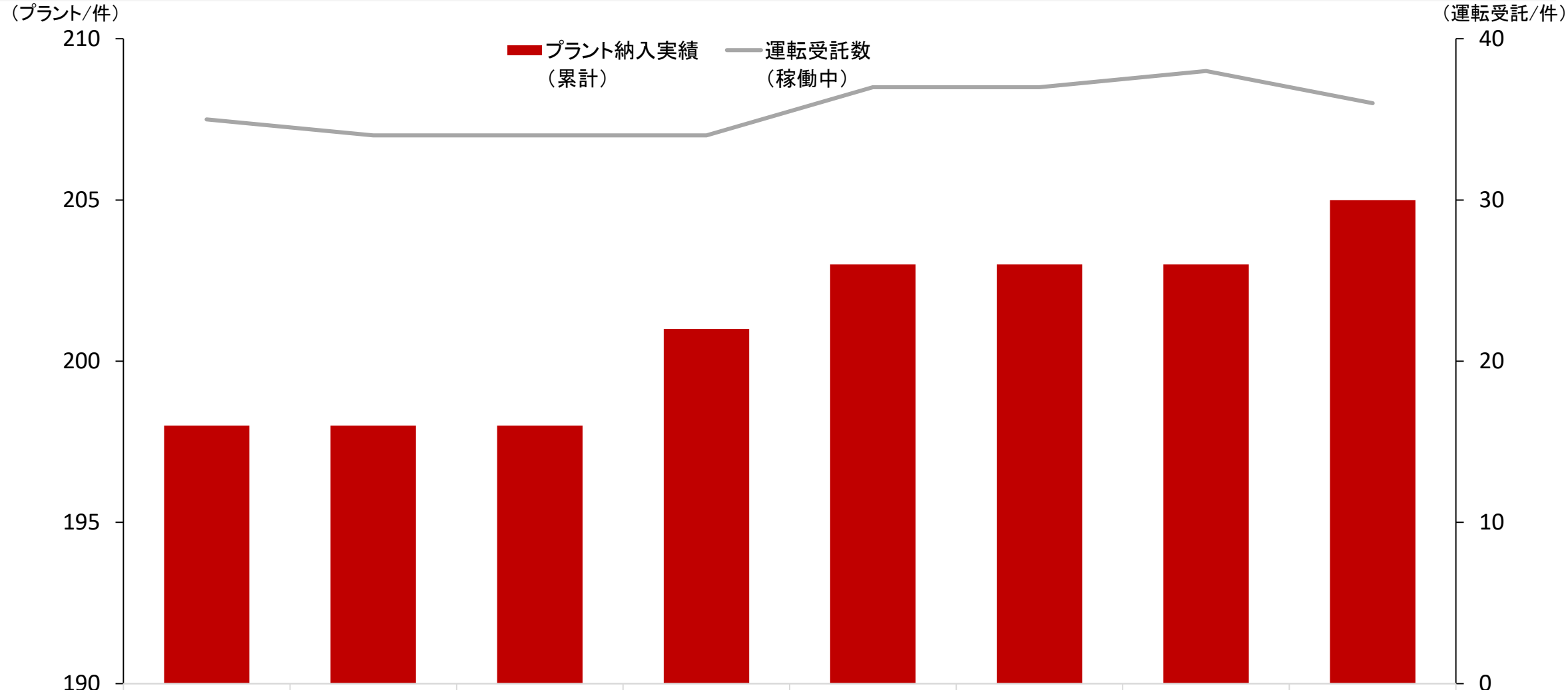




環境事業 売上高比較


売上高（百万円）
0
2,000
4,000
6,000
8,000
10,000
12,000
14,000
16,000
2023/3期
プラント
1,293
メンテナンス・運転受託
9,033
合計
10,327
2024/3期
プラント
3,567
メンテナンス・運転受託
10,254
合計
13,821

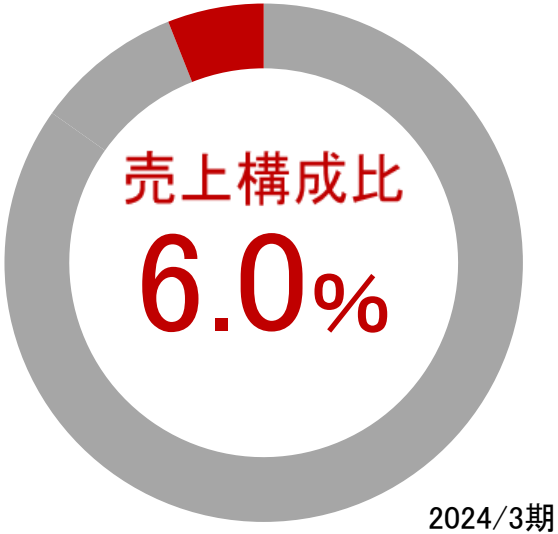
環境事業 実績推移



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
プラント納入実績（累計）	198	198	198	201	203	203	203	205
運転受託数（稼働中）	35	34	34	34	37	37	38	36

パーキング等事業

パーキング等事業



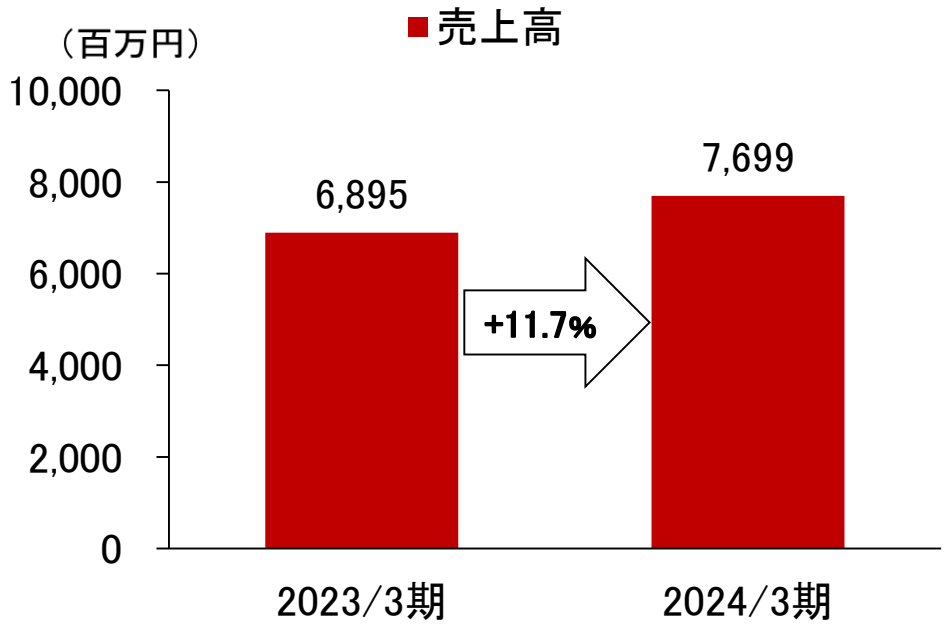
売上高 （+11.7%）

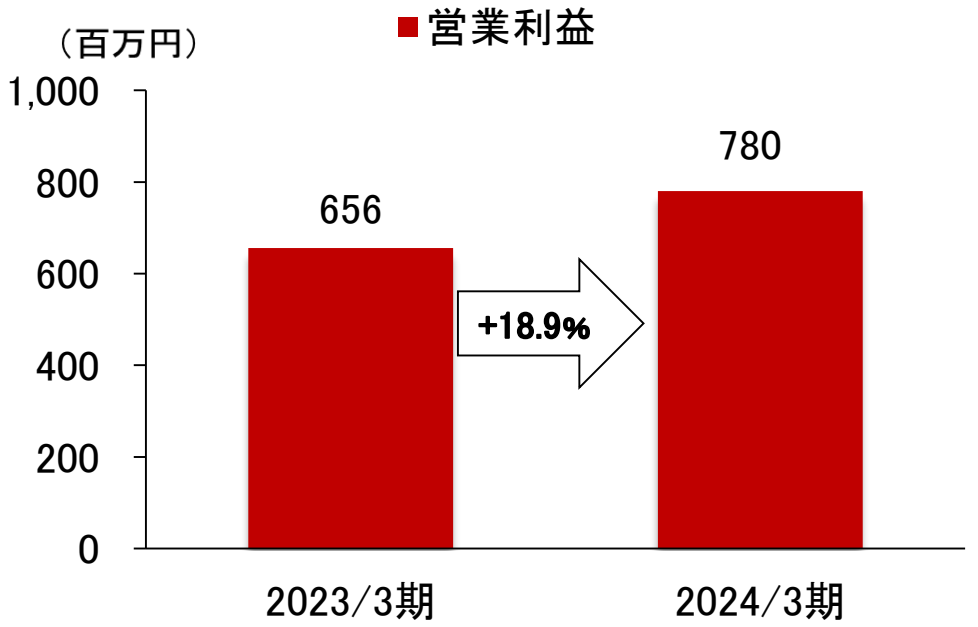
- 立体駐車装置は、新規受注及びメンテナンスの両方が増加
- コインパーキングは、稼働率の向上により増加

営業利益 （+18.9%）

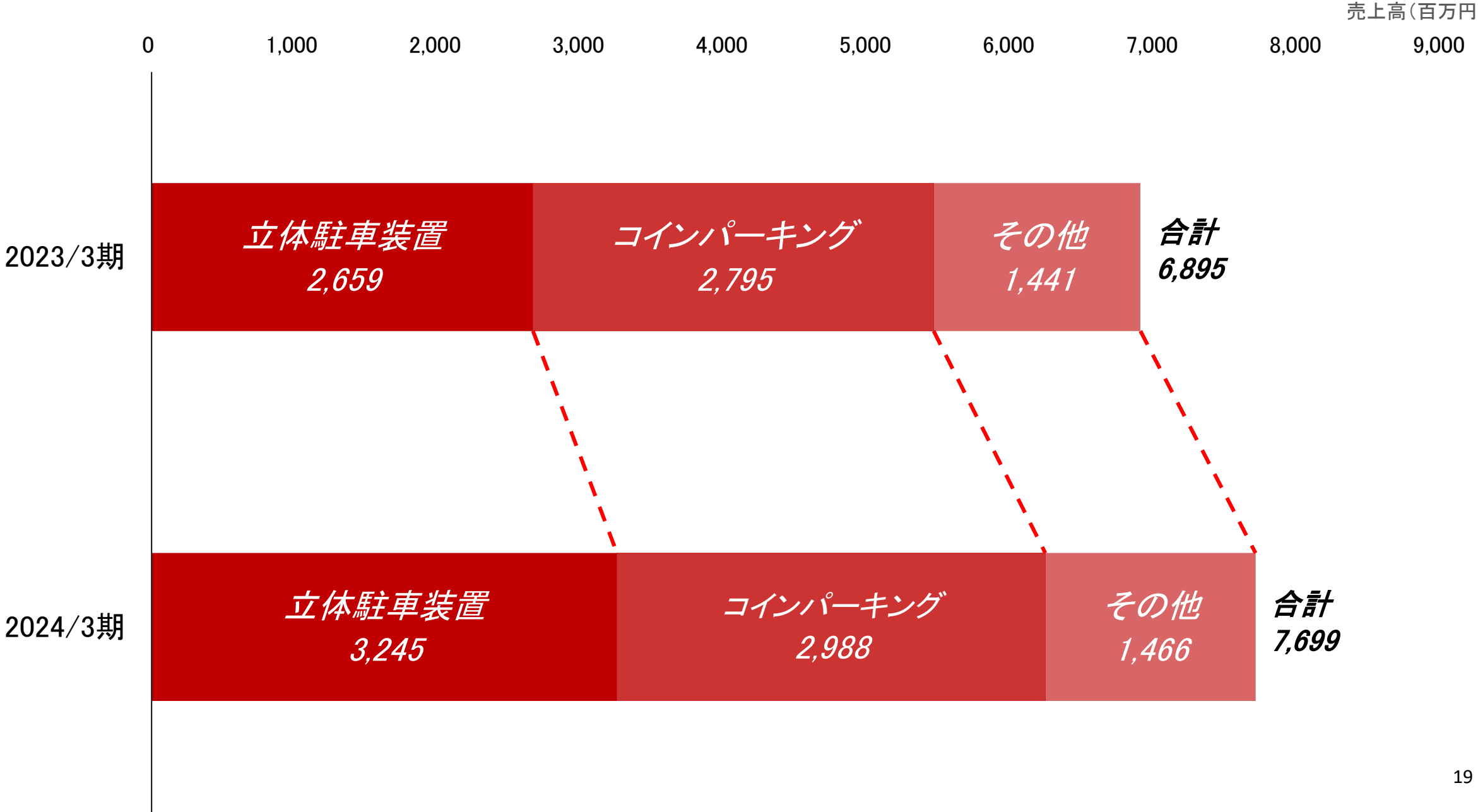
- 立体駐車装置は、ストックビジネス（リニューアル・メンテナンス）が寄与し増加
- コインパーキングは、稼働率の向上により収益性もアップ

2024/3期 通期



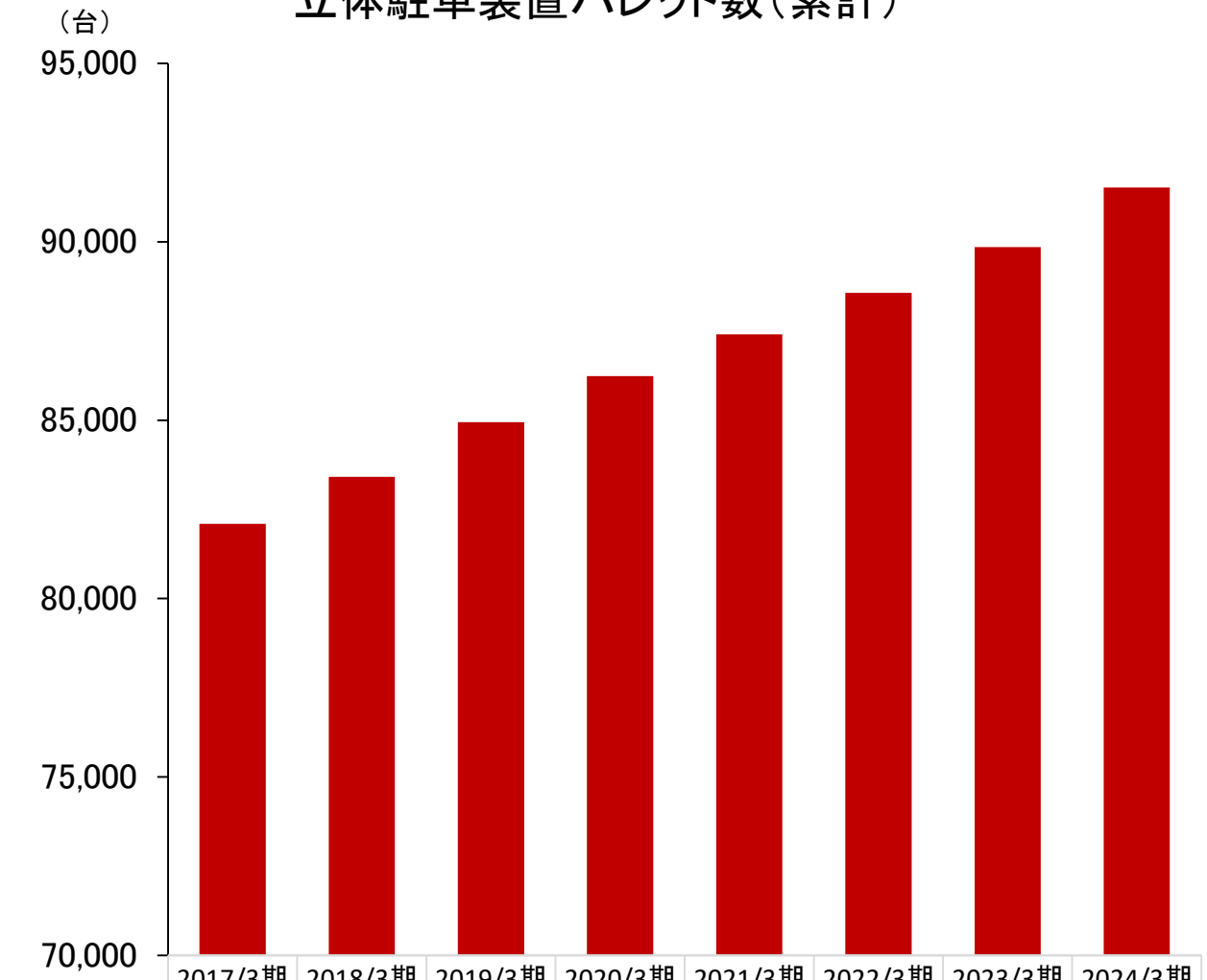


パーキング等事業 売上高比較



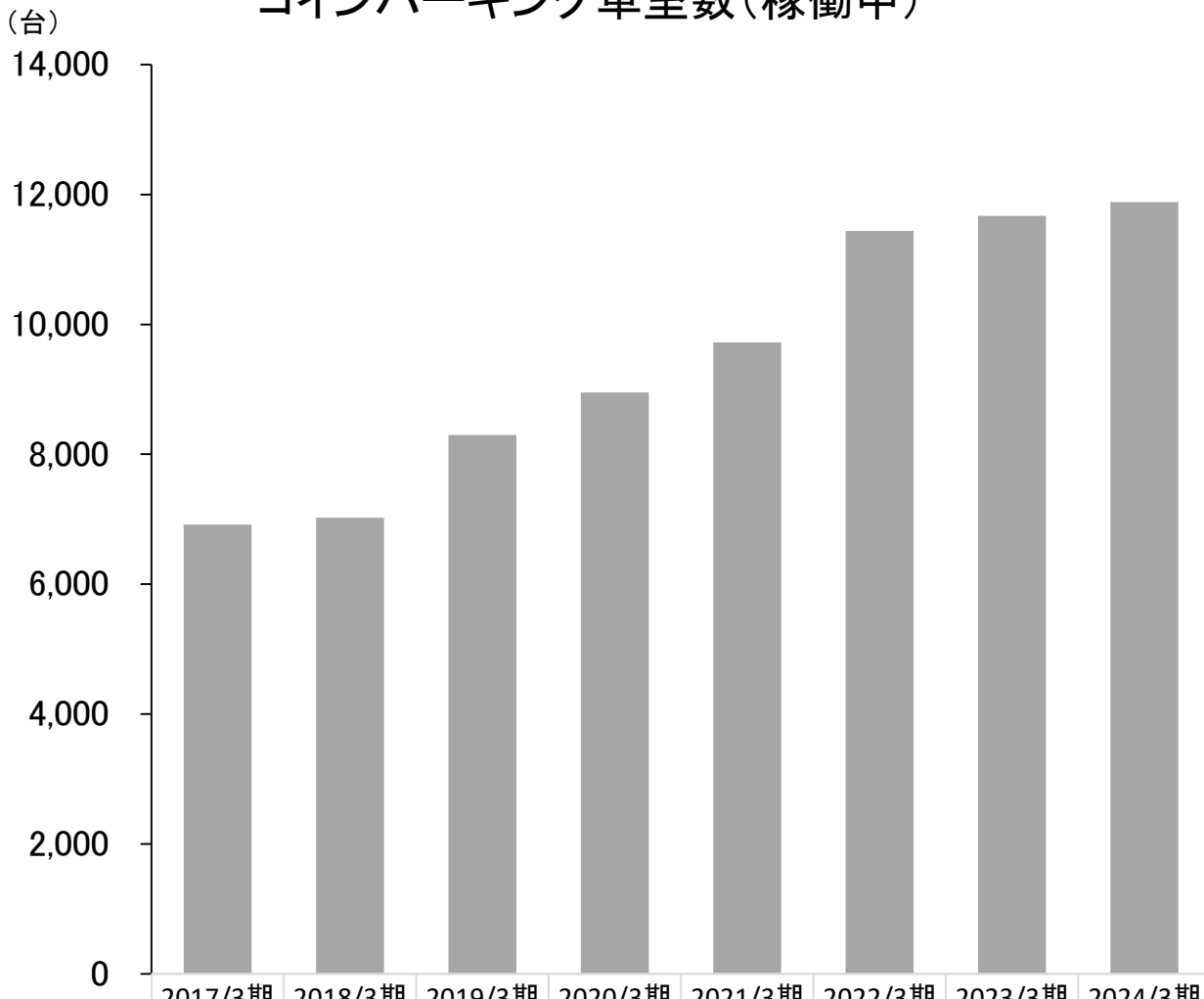
パーキング等事業 実績推移

立体駐車装置パレット数（累計）



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
パレット数（累計）	82,095	83,415	84,946	86,234	87,407	88,571	89,853	91,523

コインパーキング車室数（稼働中）



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
車室数（稼働中）	6,917	7,023	8,298	8,953	9,724	11,440	11,669	11,884

4. 2025年3月期通期 業績予想

2025年3月期 連結業績予想

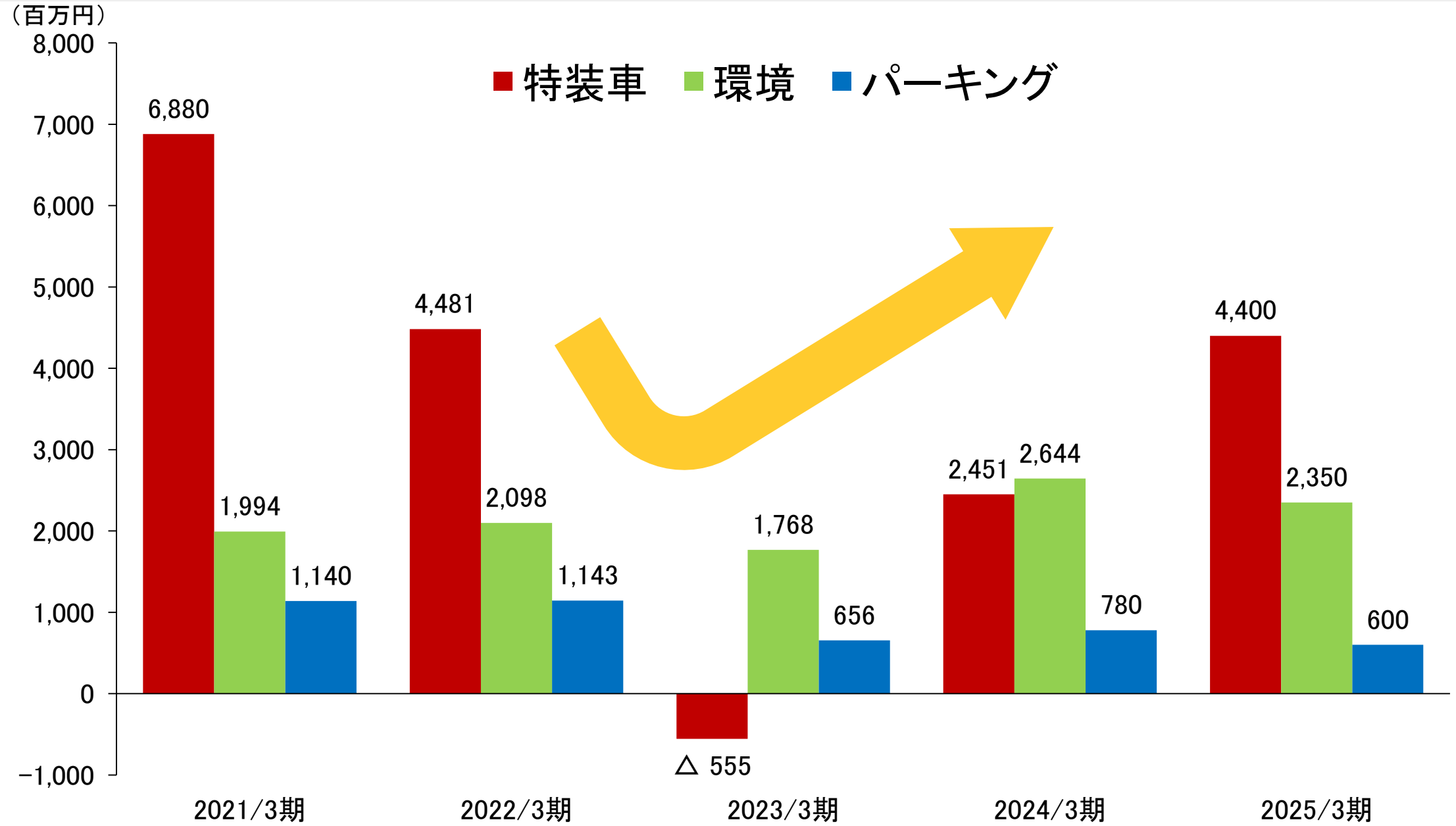
百万円 ＼ 決算期	2024/3期	2025/3期	増減	増減率
売上高	128,026	134,000	+ 5,974	+4.7%
営業利益	4,825	6,300	+ 1,475	+30.6%
経常利益	5,617	6,500	+ 883	+15.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,501	4,400	+ 899	+25.7%

2025年3月期 連結業績予想	売上高　1,340億円　営業利益　63億円　経常利益　65億円 親会社株主に帰属する当期純利益　44億円
2025年3月期 配当予想	1株当たり配当金 中間配当 58円　期末配当 58円　計 116円

2025年3月期 セグメント別予想

百万円 ＼ 決算期		2024/3期	2025/3期	増減	増減率
特装車事業	売上高	107,115	113,500	+ 6,385	+6.0%
	営業利益	2,451	4,400	+ 1,949	+79.5%
環境事業	売上高	13,821	13,500	△ 321	△2.3%
	営業利益	2,644	2,350	△ 294	△11.1%
パーキング等事業	売上高	7,699	7,600	△ 99	△1.3%
	営業利益	780	600	△ 180	△23.1%
調整額	売上高	△ 610	△ 600	+ 10	－
	営業利益	△ 1,052	△ 1,050	+ 2	－

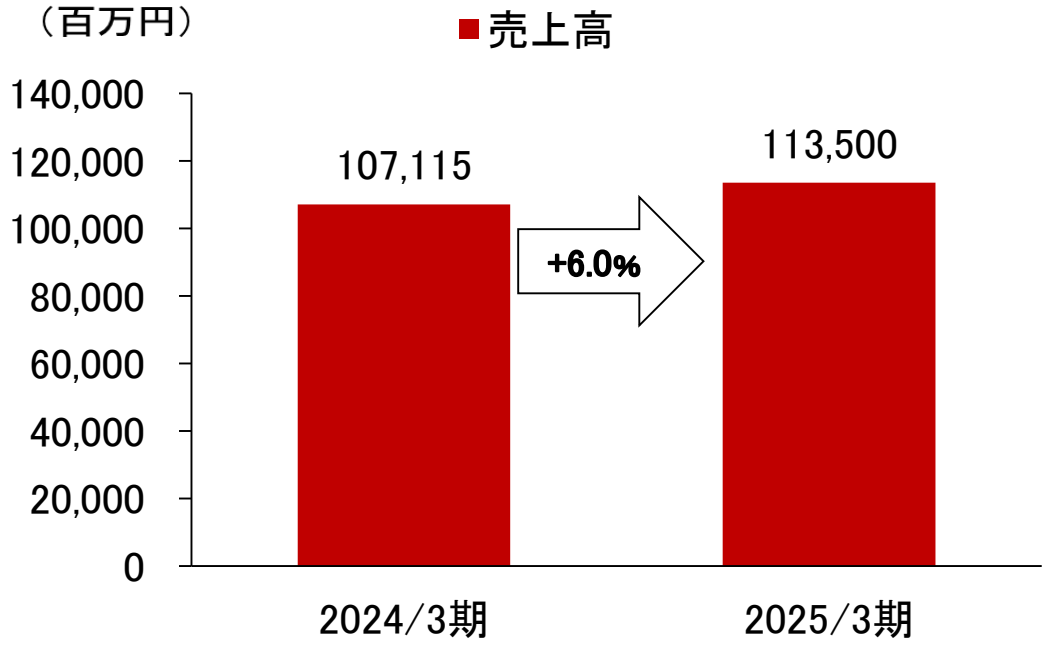
連結営業利益推移（セグメント別）

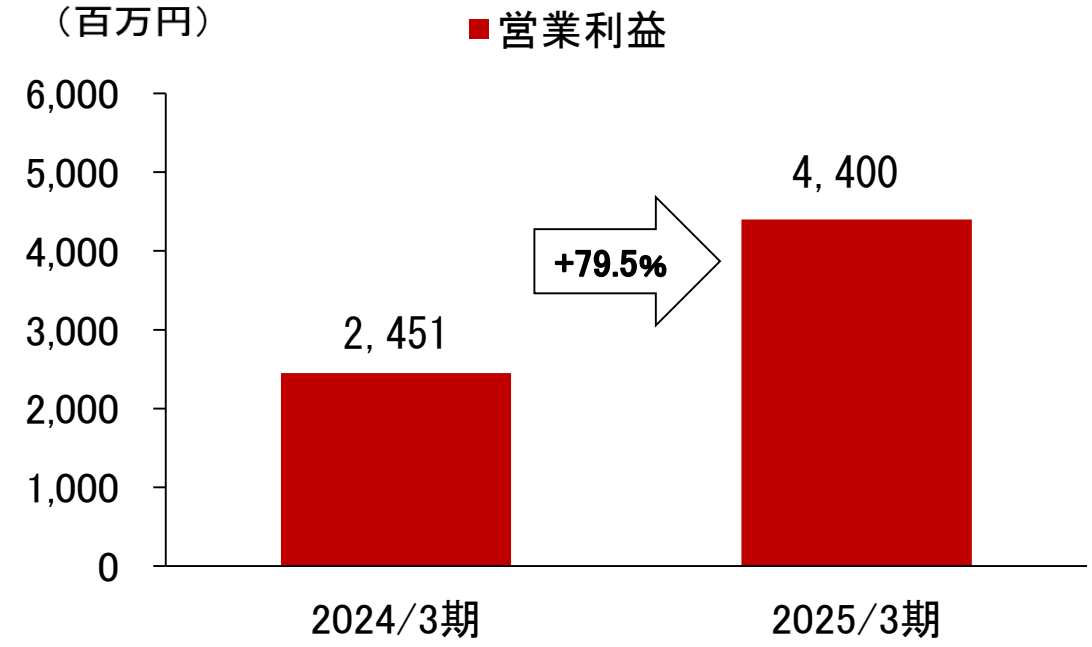


特装車事業 通期業績予想

特装車事業

- 受注は堅調、受注残高も高水準 （受注残　極東：約396億円、トレクス：約379億円　合計 約775億円）
- 国内トラックシャシの供給は徐々に改善するも、本格回復にはもう少し時間を要す
- 製品価格改定は、2022年4月以降 複数回実施、今後もタイムリーに実施
- 価格改定の業績への効果は出てきているが、未だ不十分
- 原材料、エネルギー価格、諸物価は継続して高騰

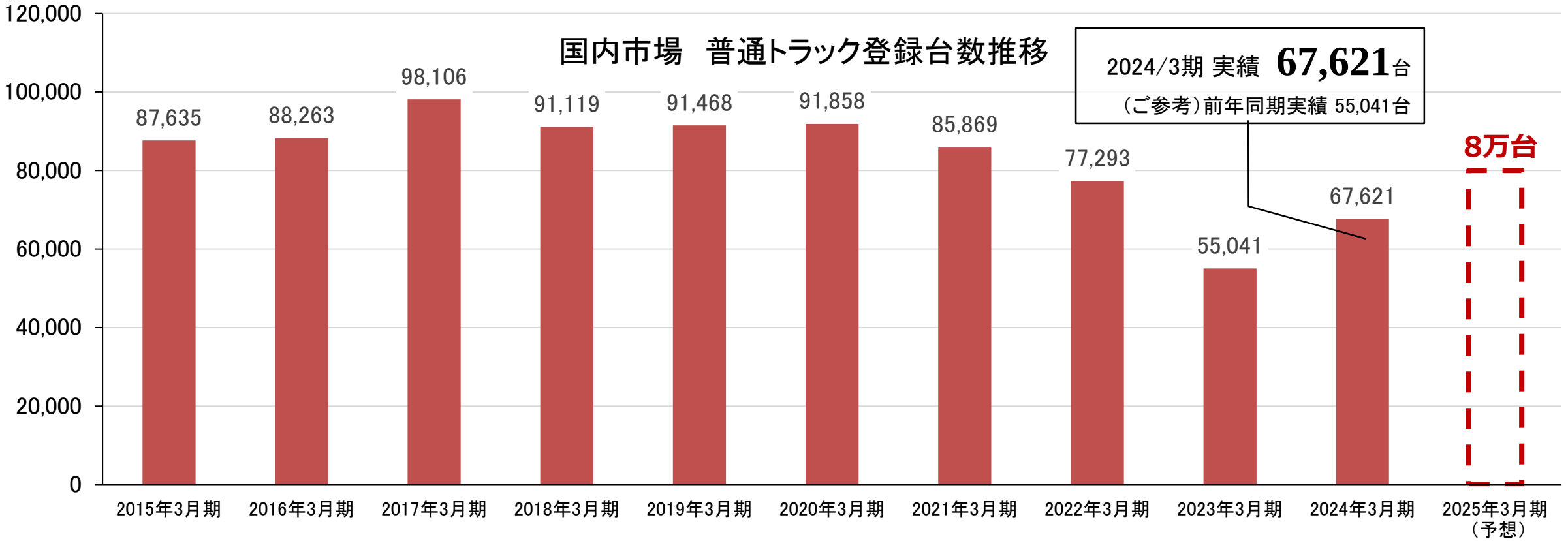




営業利益率	2024/3期	2025/3期
	2.3%	3.9%

特装車事業 国内トラックシャシの供給状況

- ◆ 普トラ台数については、2022年度は5.5万台と大きく台数を落としたものの、 23年度は実績は6.7万台
  ⇒24年度は8万台レベルまで回復を見込む ※コロナ禍以前は9万台程度の水準
- ◆ 半導体不足等によるトラックシャシの供給遅延も徐々に改善しつつある
- ◆ 国内シャシ認可の遅延及びトラック部品の調達遅延など外部要因も多く、動向に引き続き注視が必要
- ◆ 2024年5月の法令改正に伴うバックアイカメラの標準化、その他シャシメーカーにおいてもモデルチェンジや一部切替が行われ、シャシ搬入は一部遅れが継続　シャシ搬入の本格回復にはもう少し時間を要す

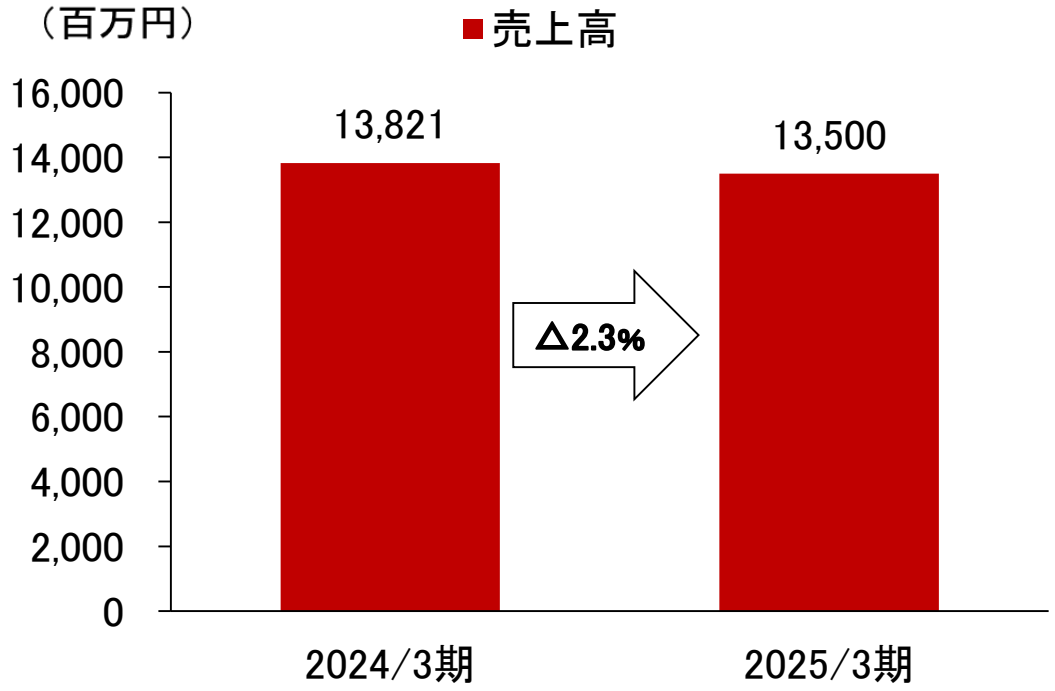


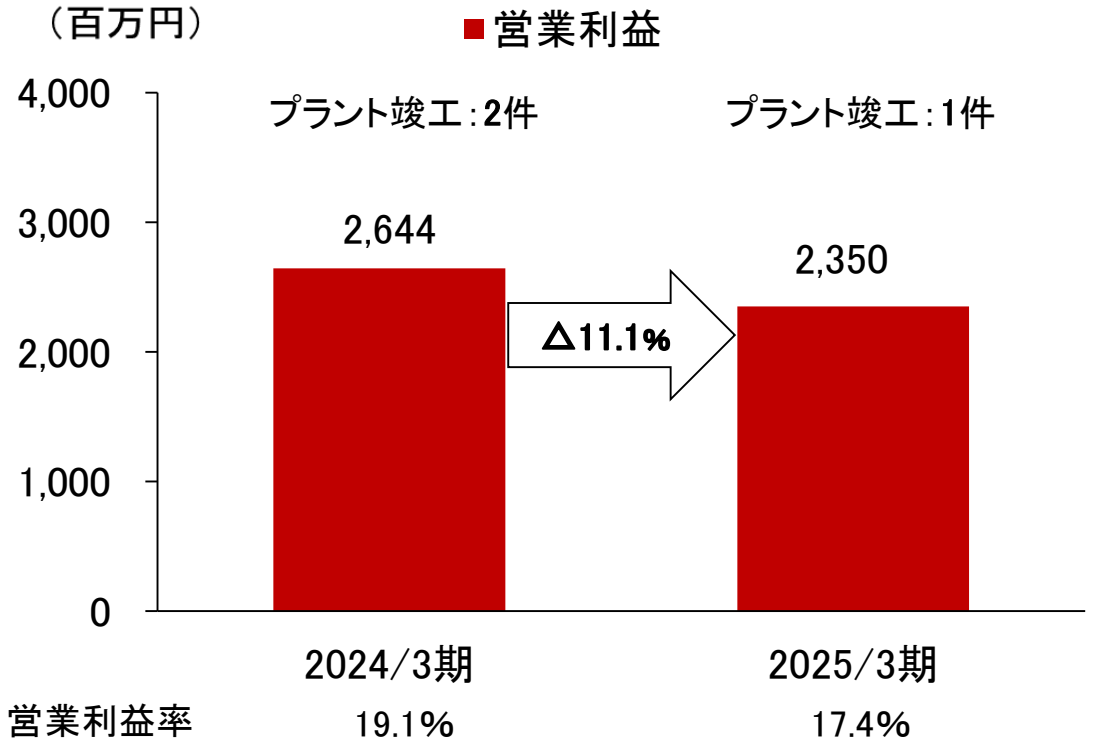
環境事業 通期業績予想

環境事業

- 今期中に新規プラントが 1件竣工予定、売上高は高水準を維持
- 運転受託及びメンテナンス等のストックビジネスは堅調
- 大型案件受注（中防不燃・粗大ごみ処理施設整備工事） 工期 52ヵ月　受注額 41,130百万円

  工事進行中：上記含め8件（北海道3件、東京、埼玉、長野、兵庫、鹿児島）

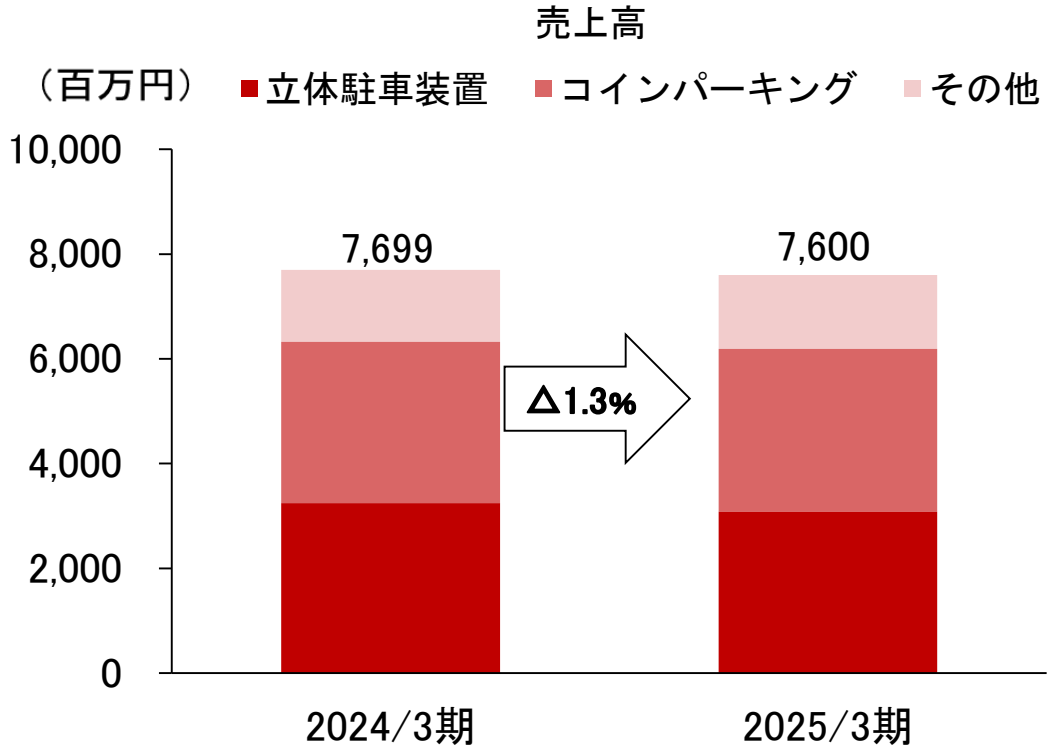


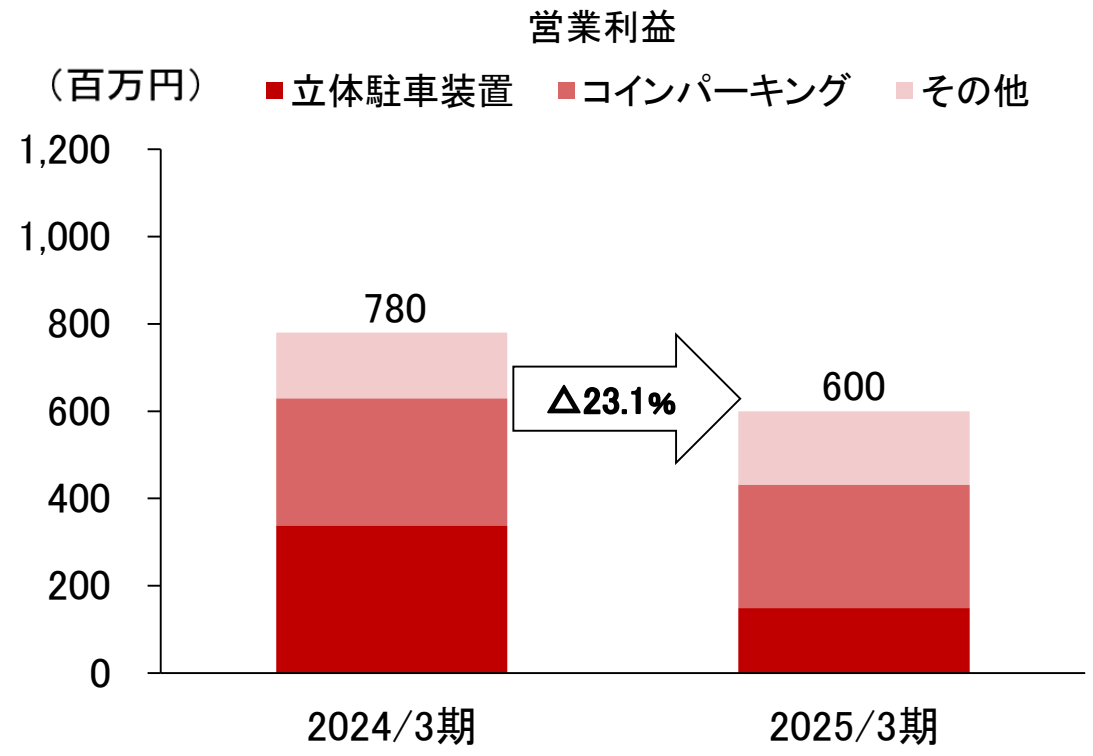


パーキング等事業 通期業績予想

パーキング等事業

- 立体駐車装置　　：リニューアル・メンテナンス等のストックビジネス強化
- コインパーキング：事業地・車室数増加と料金見直しにより収益確保
  新サービス「Charge-mo」の導入により、EV車への対応も拡充



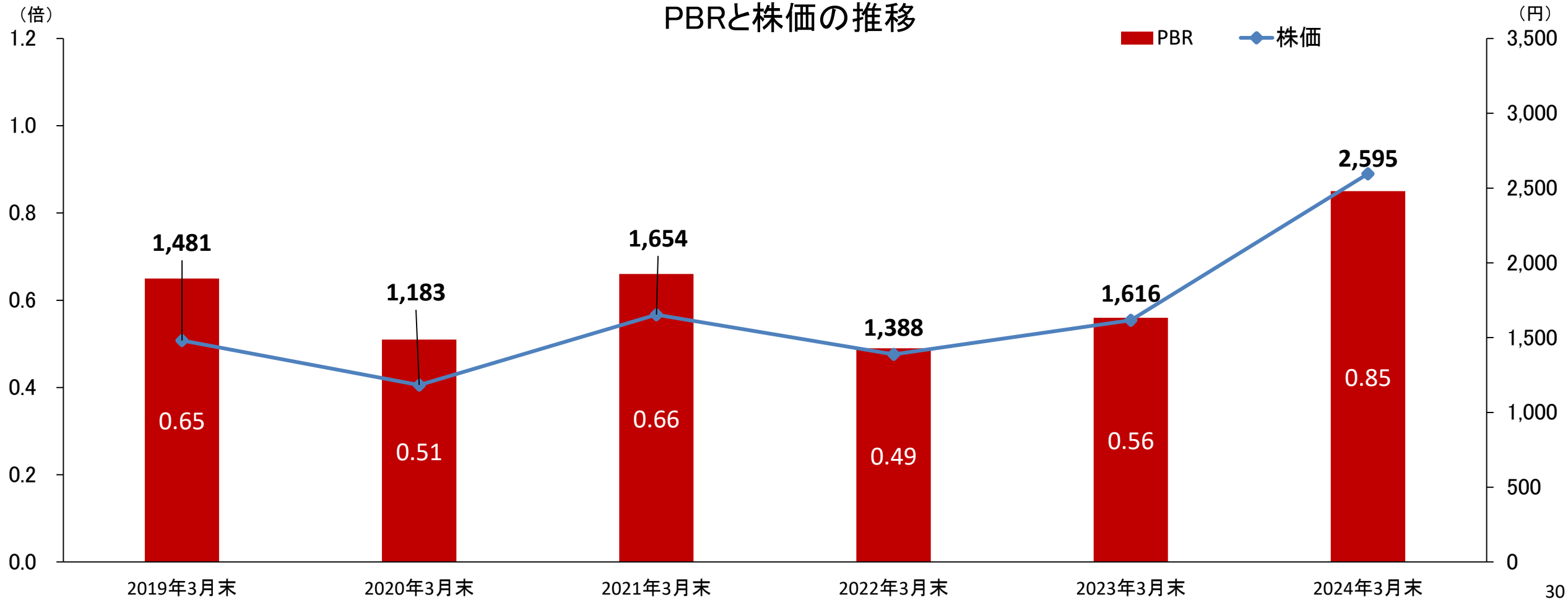


営業利益率	10.1%	7.8%

5.企業価値向上へ向けた取り組み

企業価値向上についての現状認識

企業価値の持続的な向上に継続して取り組んだ結果、PBRは 0.85倍（2024年3月末時点）まで改善
引き続き、早期のPBR 1倍達成に向け、取り組みの継続を図ることが当社の経営上の重要な課題



長期経営ビジョン

長期経営ビジョン

－ Kyokuto Kaihatsu 2030 －

3つのステップでのステップアップ戦略

1st STEP

- グループ間シナジーの強化
- 成長への積極的投資
- 社会的課題に対応する研究開発体制の強化
- サステナブル社会の実現・発展への着実な進捗

TERM：FY2022-24

2nd STEP

- グループ総合力をフル活用する事業展開と拡大
- 高い生産性と高品質の両立による強い影響力の発揮
- 社会的課題への積極的対応

TERM：FY2025-27

3rd STEP

- 「卓越した技術力」と「確固たる品質」の両立
- 安定的・効率的な利益創出の実現
- 事業活動・社会貢献領域の更なる拡大

TERM：FY2028-30

最終目標値

サステナビリティ ビジョン※1

- CO_2排出量削減：△38%※2
- リサイクル率　：99.0%以上の維持
  （埋立廃棄物ゼロ）

※1：詳細は後日公表予定の「環境ビジョン2030」に掲載
※2：極東開発工業、日本トレクス、極東開発パーキングにおける2013年度比の原単位

経営業績ビジョン

- 連結売上高　：2,000億円
- 連結営業利益率　：10％以上
- ＲＯＥ　：10％

連結業績目標

＜2025年3月期の目標＞

- 連結売上高　：1,400億円以上
  （新規M&A成長含む）
- 連結営業利益率　：７％以上
- ＲＯＥ　：６％

株主還元

総還元性向（中期経営計画 2022-24）
100%
１株当たり年間配当金額 下限
５４円

中期経営計画（キャッシュ・アロケーション）

KYOKUTO

◆ 幅広いステークホルダーからの評価と企業価値向上を意識し、キャッシュ・アロケーションの適切な配分を推進

中期経営計画 2022-24 ～Creating The Future As One～

獲得キャッシュフロー

手元資金

効率的調達

戦略投資（3ヵ年累計）

成長投資 ３００億円 以上

特装車事業 主力工場の強化 約１１０億円	特装車事業 直営サービス工場増強 約15億円
海外事業の強化 約30億円	グループ全体の研究開発強化 約60億円
BCP対策・SDGs対応 約85億円	

新規M&A投資 約１００億円

株主還元

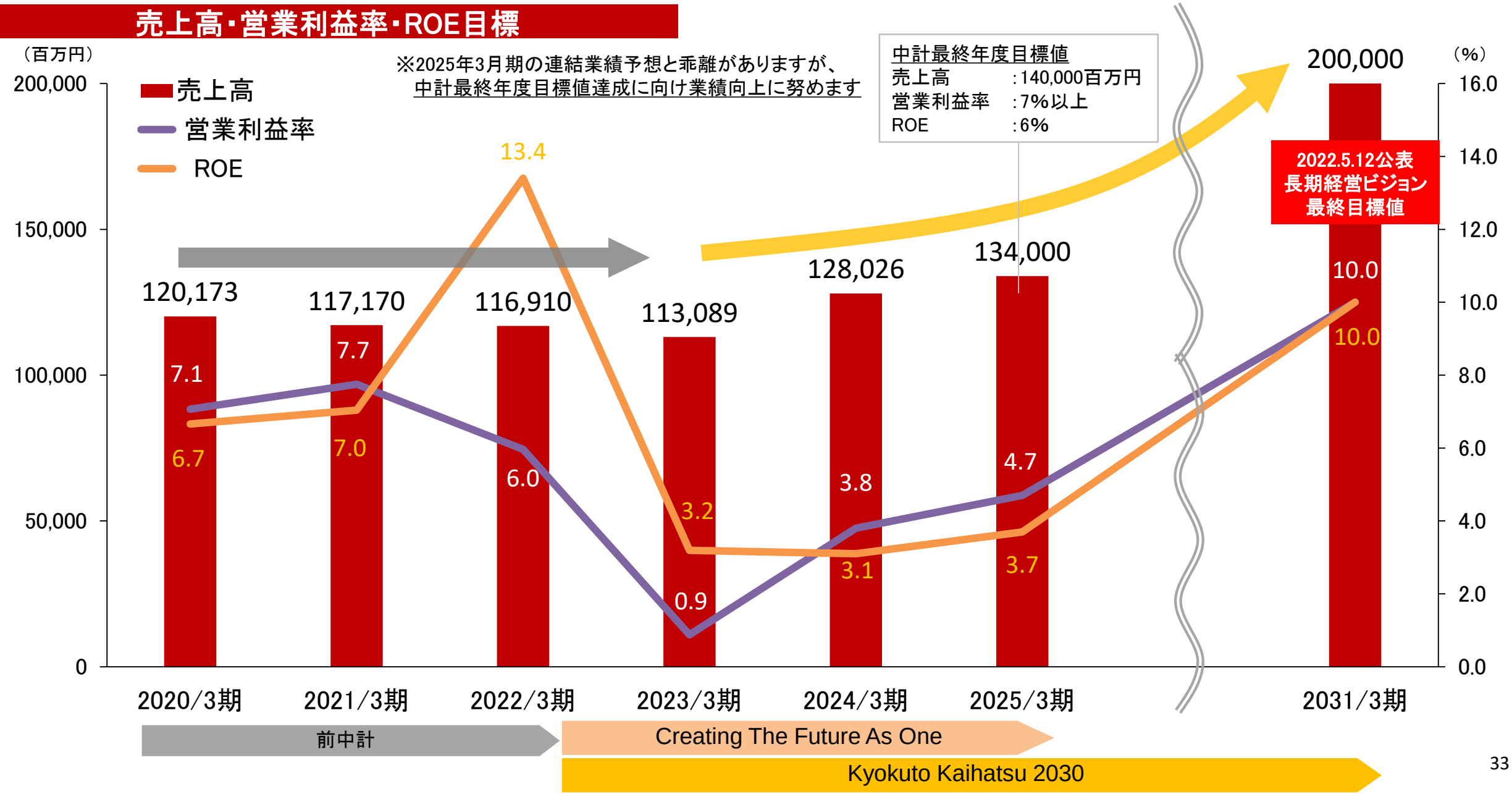
総還元性向（中期経営計画 2022-24）
１００%

１株当たり年間配当金額 下限
５４円

2024年3月期までの累計実績
232億円

資本収益性の改善

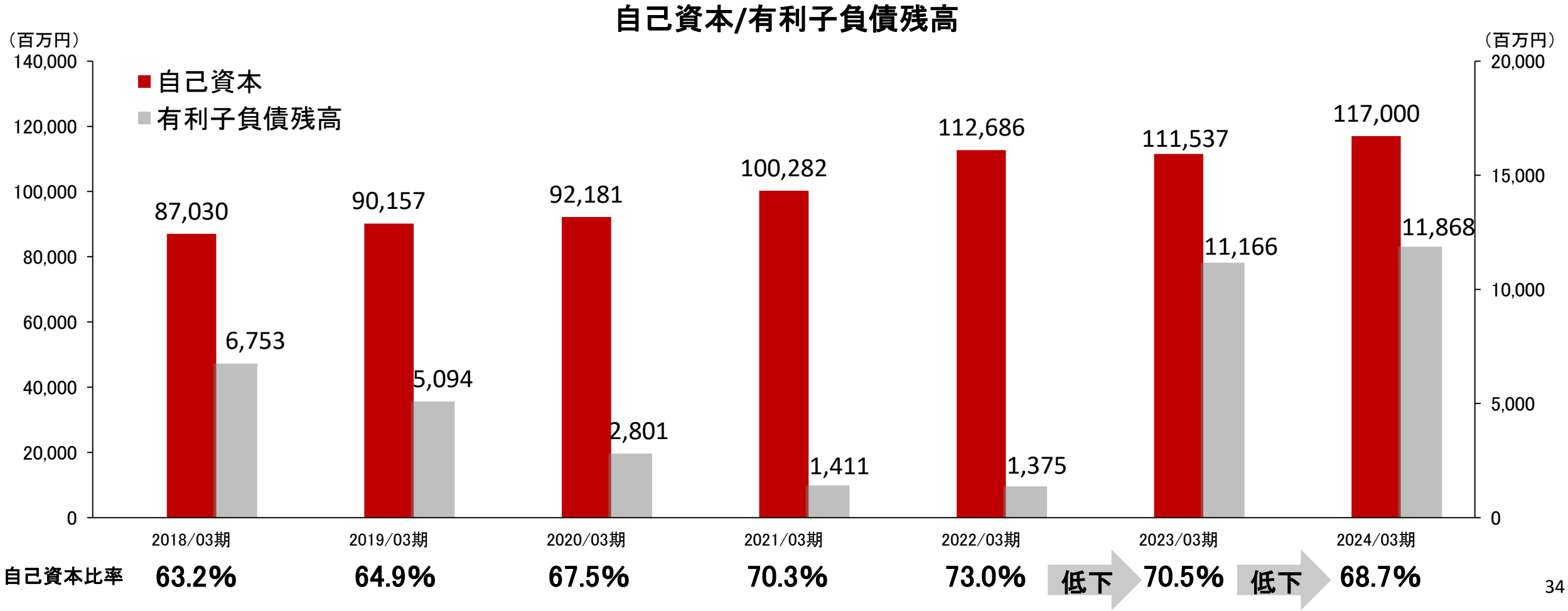
売上高・営業利益率・ROE目標



資本コスト等の算定とバランスシート改善

- 資本コスト 約7%、WACC 約6% と認識
- 有利子負債の活用等により、資本効率を向上、資本コストとWACCの更なる低減を進める
  - 2024/3月期末の自己資本比率は68.7%（2023/3期末 70.5%）に低下

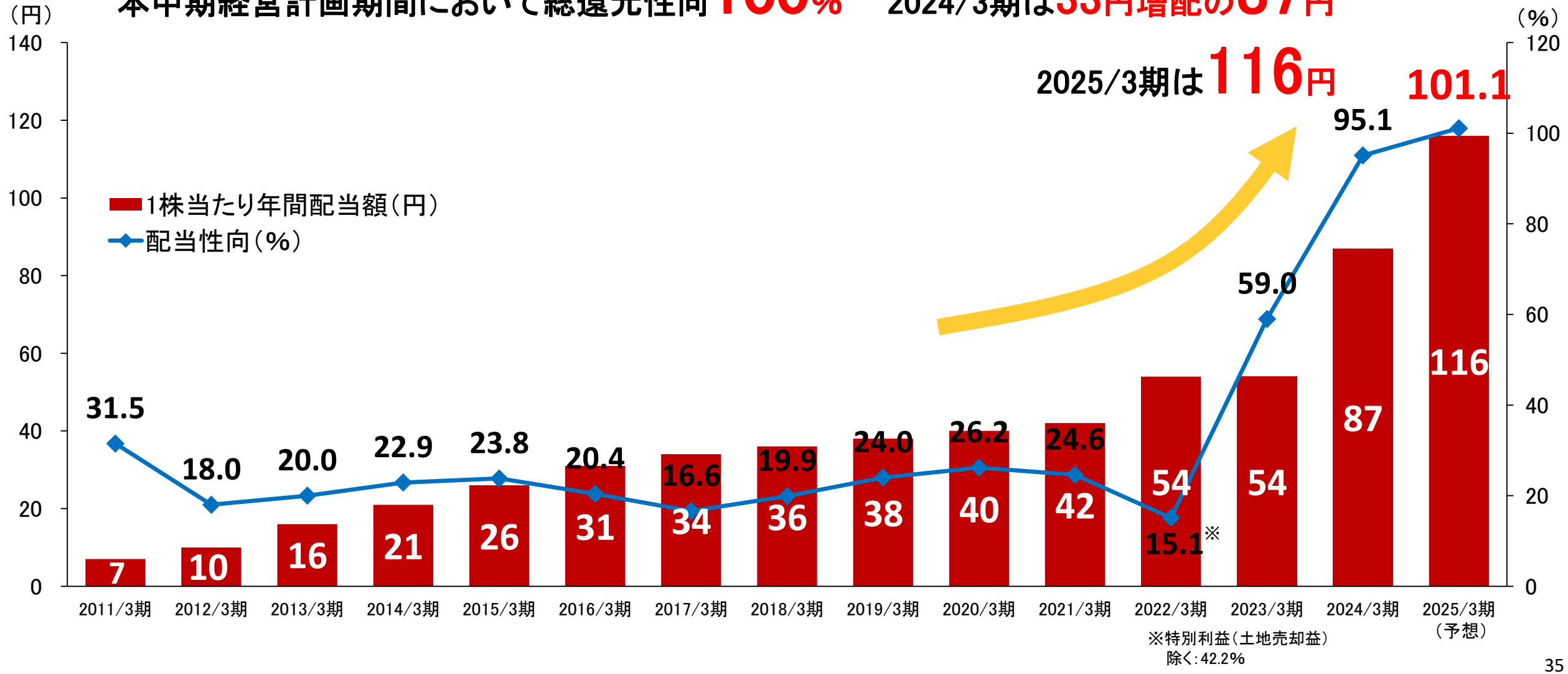
株主還元・設備投資を強化し、自己資本の増加を抑制しつつ、資本効率の向上を図る



株主還元の強化（1）

株主還元の方針：年間配当額　1株当たり下限54円　＋機動的な自己株式取得の実施

本中期経営計画期間において総還元性向100%　2024/3期は33円増配の87円



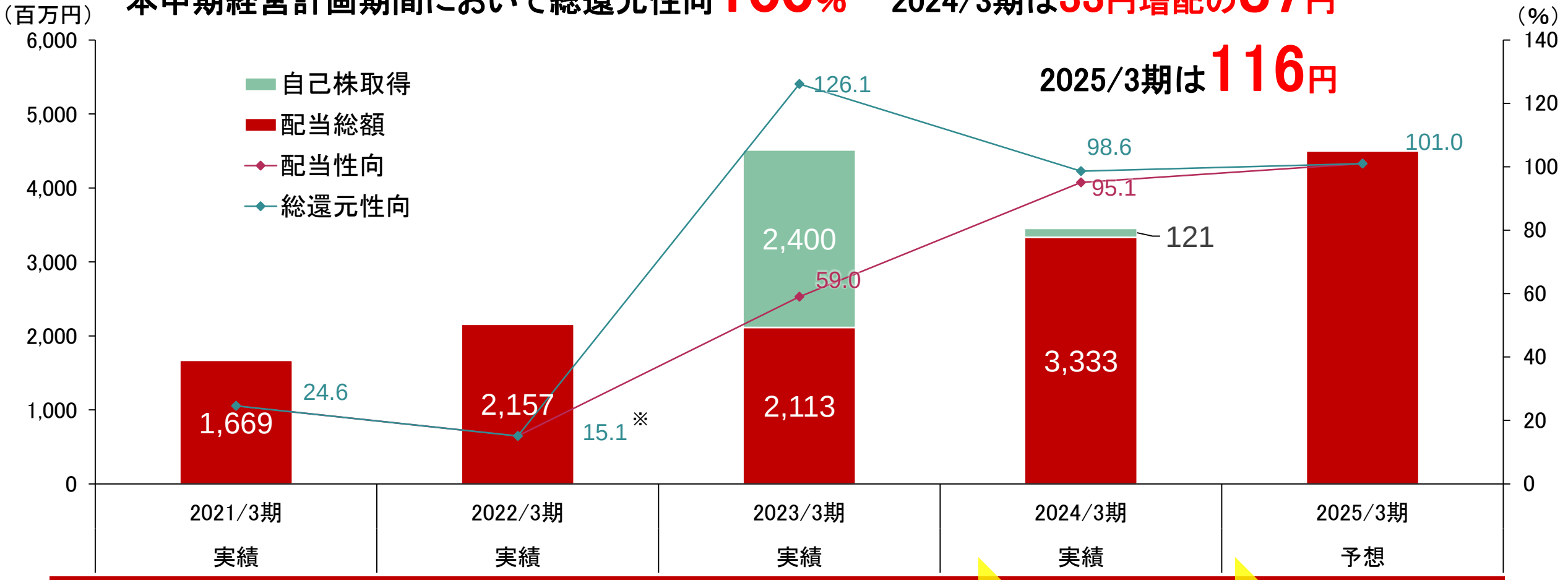
※特別利益（土地売却益）
除く：42.2%

株主還元の強化（2）　自己株式の取得を含む

株主還元の方針：年間配当額　1株当たり下限54円　＋機動的な自己株式取得の実施

本中期経営計画期間において総還元性向100%　2024/3期は33円増配の87円

2025/3期は116円



年間配当額	42	54	54	増配	87	増配	116

※　特別利益（土地売却益）除く：42.2%

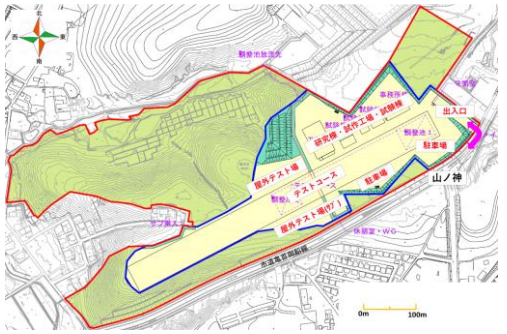
収益性の強化（主な設備投資・M&A）

分野	投資項目	投資内容	実施時期
特装	テクニカルセンターの建設	研究開発体制強化	2026年度 完成予定
特装	インドSATRAC社 新工場建設	生産能力強化 販路拡大によるシェアアップ	2025年度 完成予定
特装	日本トレクス 新工場建設	生産能力強化　約40%向上	2024年度 完成予定
特装	姫路サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 1月竣工
特装	福岡工場 新工場棟・新事務所 竣工	生産能力強化　約30%向上	2023年 9月竣工
特装	オーストラリア販売代理店 グループ化	豪州及びオセアニア圏への 初拠点	2023年 7月実施
特装	九州特殊モータース グループ化	サービス体制強化	2023年 4月実施

37

収益性の強化（主な設備投資）

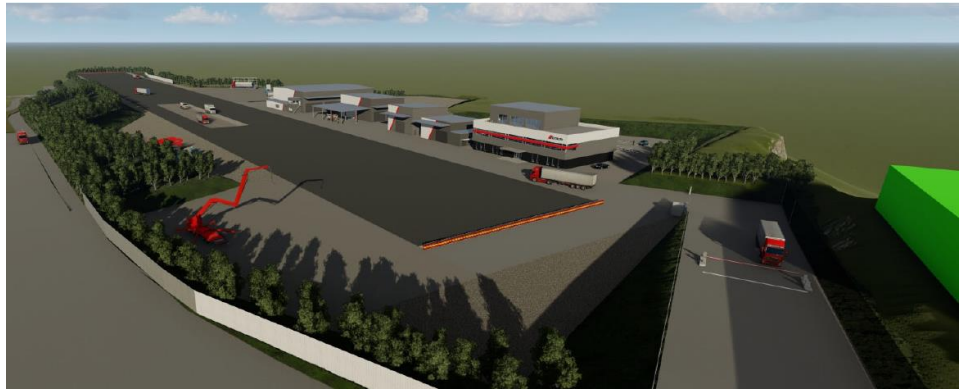
テクニカルセンターの建設（2026年度完成予定）



◆ 社会的課題に対応する研究開発体制の強化/社会的課題への積極的対応
- 開発サイクルの短縮
- 市場ニーズへの迅速な対応
- 軽量化・カーボンニュートラル
- Iot・AI・EV化への対応力向上

◆ 確固たる品質向上への取り組み
- トレーラの認証試験を行うテストコースの設置
- 規制への迅速な対応

◆ グループ間シナジーの強化



全景鳥瞰イメージ

日本トレクス 新工場建設（2024年度完成予定）

◆ 重要工程の自動化により生産能力 約40%向上

◆ 生産工程における高所作業を減らし、安全な作業環境を構築

◆ より環境に配慮した工場へ

※部品塗装で発生する揮発性有機化合物を年間 約 6.3 t 低減
※太陽光発電の設置によりCO_2排出量を年間 約 3.2 t 削減

新工場イメージ

収益性の強化（主な設備投資）

インドSATRAC社 新工場建設（2025年度完成予定）

インドにおける旺盛な特装車需要により、2024年3月期に過去最高の売上となったグループ会社の
SATRAC社は、生産能力の強化による受注の取り込みと販路拡大によるシェアアップ及び将来的な製品の
輸出展開を目指し、タミル・ナドゥ州チェンナイ市近郊に新工場建設を計画中

サステナビリティの取り組み

	取り組み内容
E （環境）	➢ CO2排出量削減率　長期経営ビジョン　目標：△38%以上　実績：△25.9% ※2013年度比の原単位 中期経営計画　目標：△10%以上　実績：△14.1% ※2020年度比の原単位 ➢ リサイクル率　（長期経営ビジョン・中期経営計画ともに、99.0%以上の維持を目標） 実績：97.8% ➢ 環境負荷物質管理 SOC（カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）を使用しない自然環境に配慮した製品づくり
S （社会）	➢ 寄付 2023年度における寄付などの社会貢献活動への出資金額 合計 14,736,764 円 ➢ 清掃活動・近隣イベントへの参加・協力 合計 25件に協賛・協力し、地域の課題解決に積極的に協力 ➢ 次世代育成 次世代育成（工場見学・出前授業）工場見学：2023年 4～12月 1,195 人
G （ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ）	➢ 調達ガイドライン サプライヤーに調達ガイドラインを周知徹底すべく説明会を実施 ➢ 倫理相談窓口 動画による研修とQRコード付ポスターを各拠点に掲示し、よりアクセスしやすいよう周知 ➢ 情報セキュリティ 外部業者による情報セキュリティ調査を実施し、現状の課題を把握

※実績値はいずれも2023年度実績

6. TOPICS

TOPICS① 新「eパッカー®」市販車第1号を納車

電動式ごみ収集車 新「eパッカー」を開発し、三菱ふそうトラック・バス株式会社の電気小型トラック「eCanter」の新型モデルに架装した市販車国内第1号車を納車いたしました。

今回開発した新型車は、当社が今まで培ってきた電動技術とノウハウを生かした走行・作業共にフル電動のごみ収集車で、排気ガスとCO2の排出がありません。

（2023年12月8日ニュースリリース）

新「eパッカー」の特長

- 排気ガス・CO2を排出しないクリーンな作業の実現
- 低騒音
- エンジン車と変わらない仕様と作業性

BEVシャシ向け電動式ごみ収集車 新「eパッカー」
（新型「eCanter」架装・ティエラル様納車車両）

電動式ごみ収集車の開発変遷※当社調べ

2010 年：日本初の電動式ごみ収集車 初代「e パッカー」を開発
2011 年：「ツインドライブ・e パッカー」を開発
2014 年：世界初の「e パッカー ハイブリッド」を開発

TOPICS② エフ・イ・オート 姫路サービスセンター リニューアルオープン

① お客様の利便性の向上と更なるサービス体制の強化
② 敷地を約3倍に大幅拡張
③ グループ会社の日本トレクスとのシナジー創出
④ 中古車の展示場「姫路中古車センター」を
3拠点目として新たに併設

エフ・イ・オート 姫路サービスセンター / 姫路中古車センター

大型車両や日本トレクス製品のトレーラなど
幅広い車種の受け入れが可能となり、
さらに迅速なサービスのご提供を実現し、更なる拡大を目指します。

屋根上には直営サービス工場として初めて太陽光パネルを設置し、
クリーンエネルギーの利用によるCO2排出量の削減をはじめとした環境への対応を図ります。

（2024年1月22日ニュースリリース）

TOPICS③ EV充電管理サービス「Charge-mo ™（チャージモ）」がスタート

KYOKUTO

　グループ会社の極東開発パーキングは、EV 用充電設備の設置から充電管理サービスまでを一括で請け負う新サービス「Charge-mo ™ （チャージモ）」を、同社が運営するコインパーキング「P.ZONE®」の天満橋駐車場（大阪市北区天満橋3 丁目5-6）及び北野坂第2駐車場（神戸市中央区山本通2 丁目13-20）の2拠点にてスタートしました。

【P.ZONE® 天満橋】

【P.ZONE® 北野坂第2】

　今回のスタートを皮切りとして今後、積極的なサービス展開を進めてまいります。（2023年11月30日ニュースリリース）

Charge-mo

【特徴】
- 専用のCharge-mo Webアプリで簡単に充電
- EV用充電設備の導入からアフターサポートまでフルパッケージのご提案
- マンションなどの集合住宅やコインパーキングでも設置可能

TOPICS④ 中防不燃・粗大ごみ処理施設整備工事受注

東京二十三区清掃一部事務組合様より中防不燃・粗大ごみ処理施設整備工事を受注いたしました。

本事業は、東京都江東区の中防処理施設において、現在稼働中の処理施設及びごみ処理を継続しながら、第一プラントの建築物・プラント設備などを解体・撤去し、その跡地に国内最大級の処理能力を持つ、中防不燃・粗大ごみ処理施設を建設する事業です。（2023年9月28日ニュースリリース）

外観イメージ図

【本件概要】

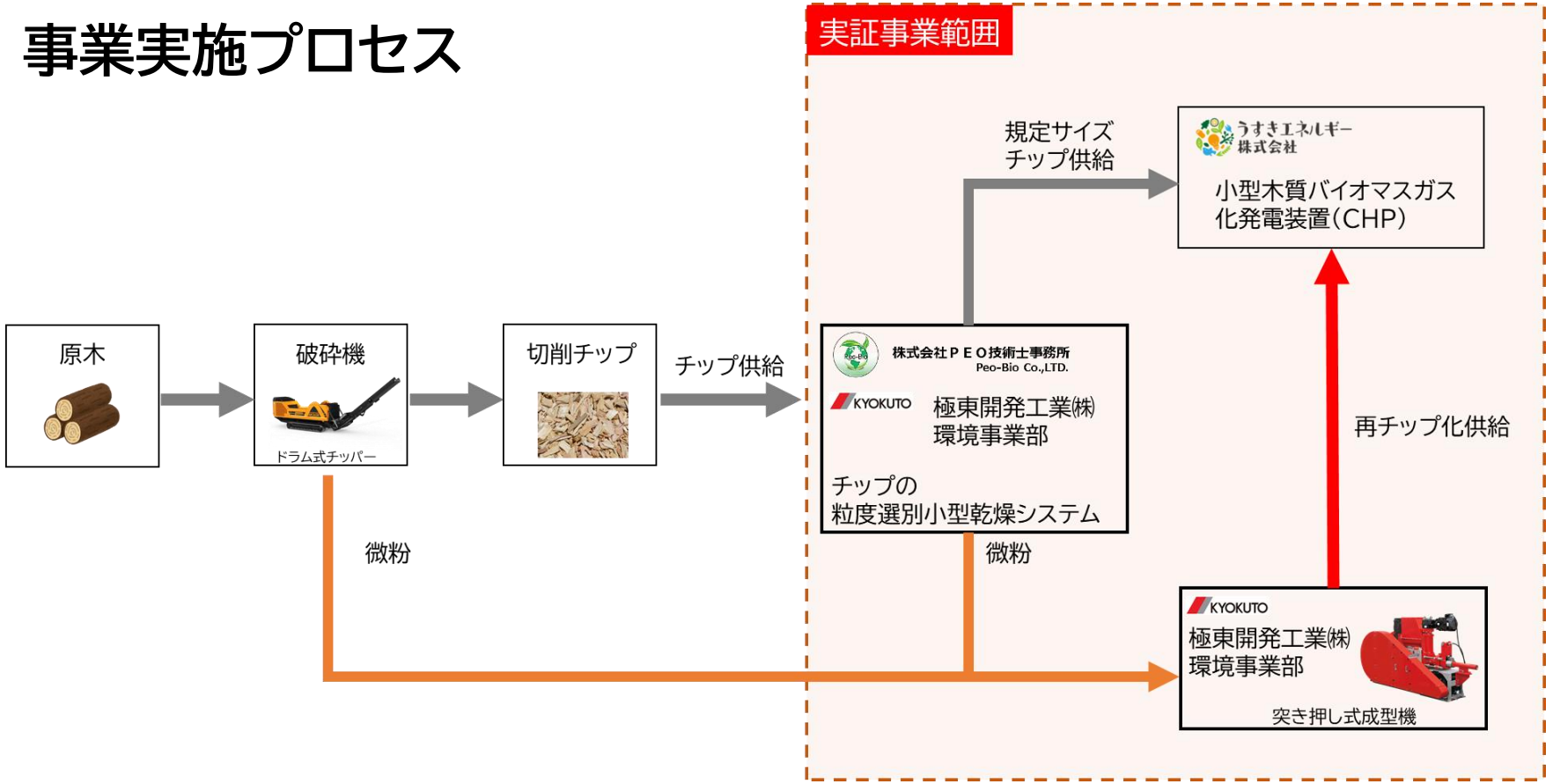
1.	発注者	東京二十三区清掃一部事務組合
2.	受注グループ 代表企業（プラント工事 設計・施工）	極東開発工業株式会社
	構成企業（土木建築、解体工事 設計・施工）	東急建設株式会社、岩田地崎建設株式会社
3.	事業名	中防※不燃・粗大ごみ処理施設整備工事 ※中央防波堤
4.	事業場所	東京都江東区海の森二丁目4番79号
5.	事業期間	令和5年9月27日～令和10年1月31日（52ヵ月）
6.	受注金額	41,130,000,000円（消費税及び地方消費税除く）
7.	施設規模	420ｔ/6h　（210t/6h×2系列）
8.	事業方式	EPC方式（既設第一プラント解体及び新施設建設工事）

TOPICS⑤ 「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に採択

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）が公募した「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に対し、株式会社ＰＥＯ技術士事務所及びうすきエネルギー株式会社との共同で提案を行い、このたび採択されました。

本事業では、当社製品である突き押し式成型機により、微粉を再チップ燃料化し、燃料チップ価格を実質3割程度低減させることに加え、チップの粒度選別小型乾燥機の設計・製作など、チップ製造のシステム構築を行うことで、国内の小型木質バイオマスガス化発電装置の稼働率向上を目指します。（2023年12月8日ニュースリリース）

事業実施プロセス



KYOKUTO

変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業へ

AIMING TO BECOME A GLOBAL COMPANY WITH FLEXIBILITY TO ADAPT TO CHANGES

本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く本資料を複製・配布することを禁止します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

極東開発グループは持続可能な
開発目標（SDGs）を支援しています。

参考 補足資料

特装車事業について

※トラックへの架装の場合

トラックメーカー・ディーラー

商社・ユーザー様

①発注

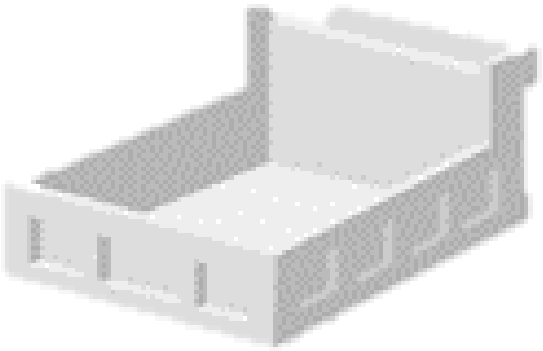
②シャシ搬入
（預かり）

④納入
【売上】

①発注

④納入
【売上】

トラックの車台（シャシ）



ボデー

③架装

完　成

※コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。

グループ主力製品

＜数値はシェア　当社調べ(2024年3月末)＞

赤字:シェア1位製品
青字:シェア2位製品

コンクリートポンプ車（72.4%）

粉粒体運搬(46.3%)

1台積車輌運搬車
(40.7%)

タンクローリ・散水車
(25.1%)

トレーラ(45.3%)

ダンプトラック
(35.8%)

ごみ収集車(22.3%)

脱着ボデー車(28.8%)

ウイングボデー車(20.7%)

国内生産体制

三木工場
（兵庫県三木市）
- コンクリートポンプ車
- ごみ収集車
- タンクローリ
- 機能部品の内製

福岡工場
（福岡県飯塚市）
- ダンプトラック
- バン

名古屋工場
（愛知県小牧市）
- ダンプトラック
- 粉粒体運搬車
- テールゲートリフタ
- 散水車、タンクローリ

日本トレクス本社事業所
（愛知県豊川市）
- トレーラ
- バン

日本トレクス音羽事業所
（愛知県豊川市）
- ウイングボデー

日本トレクス御津事業所
（愛知県豊川市）
- スワップボデー

横浜工場
（神奈川県大和市）
- ダンプトラック
- 脱着ボデー車
- 1台積車輌運搬車

海外生産体制

昆山工場（ 操業開始： 2005年4月 ）

- ミキサートラック

インド工場（グループ化：2020年12月）

- ダンプトラック
- トレーラ
- タンクローリ

オーストラリア工場（グループ化：2023年7月株式取得 ）

Kyokuto Australia Pty Ltd

- ミキサートラック

インドネシア工場（ 操業開始： 2014年2月 ）

PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA

- ダンプトラック
- ミキサートラック
- テールゲートリフタ

環境事業について

KYOKUTO

自治体

広域組合

廃棄物処理関連企業

発　注

プラント建設
設備据付

全国 205 箇所の納入実績
※2024年3月末

発　注

運転受託
メンテナンス

全国 36 箇所で運転を受託中
※2024年3月末

パーキング等事業について

KYOKUTO

【立体駐車装置】

ゼネコン　デベロッパー

マンション管理組合

発注

立体駐車装置の製造

全国 91,523パレット
※2024年3月末

発注

メンテナンス
リニューアル

【時間貸駐車場】

土地オーナー

賃貸

土地賃貸料

P.ZONE®

全国 720事業地
11,884車室
※2024年3月末

コインパーキング用地は自社保有ではありません

利用者

利用料【売上】